435

授業科目名	**地域・学校実践演習Ⅰ**				
担当教員名	服部敬一				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭（２３年），小学校教頭（５年），教育委員会指導主事（２年），小学校校長（７年）（全１５回）				

授業概要

地域の教育施設や学校園等のフィールドワークを行う。地域の教育施設や学校園等にボランティアあるいはインターンシップとして参加し，参与観察および関係者へのインタビュー等を通して，教員や教育職員，子供，保護者が抱えている課題は何かを探求する。その探求方法として，ケースメソッドによる省察を行う。そのために，省察的実践とケースメソッドについての理論的な理解を踏まえながら，本授業で関与している事例について，学問領域，校種，年齢，学校と地域などの領域を越えて，事例を多角的・多面的に省察していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	地域の教育施設や学校園等の教員，教育職員，子供，保護者が抱える課題を探求し，ケースメソッドによる省察を行う。	地域の教育施設や学校園等の教員，教育職員，子供，保護者が抱える課題について多角的・多面的に省察する。
2. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	地域の教育施設や学校園等の教員，教育職員，子供，保護者が抱えるについて，省察することを通して論理的な視点をもつ。	課題の根拠を分析し，見極める視点をもつことができる。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		各教育現場から，我が国の教育や社会が抱える課題を見るとともに，その構造的意味について事実をもとに考察することを通して，物事の見方・考え方を深めることができる。
2. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		学生相互で意見を交流し合いながら、実践課題を形成，分析，考察することができる。

学外連携学修

有り(連携先：未定)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

成績評価方法：実践フィールド研究の発表内容
・現代的課題の視点からそれぞれのフィールドにおける課題を見つけているか。
・見つけた課題について探求し，ケースメソッドによる省察を行っているか。
〇優れた授業実践もしくは優れた教師を志向しているか。
〇指定した実践課題と実施した授業実践および成果発表に一貫性はあるか。
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆頭試験	30 ％	： 地域のフィールドの課題を理解し，省察して，優れた授業，教師に結びつけている。
実践課題		： 地域の教育施設や学校園等の教員や教育職員，子供，保護者が抱えている課題は何かを探求した。

20　%

授業づくりと授業実践　：　地域の教育施設や学校園等の教員や教育職員，子供，保護者が抱えている課題をもとに優れた授業実践に結びつけている。

20　%

成果発表　：　域の教育施設や学校園等の教員や教育職員，子供，保護者が抱えて課題をケースメソッドにより省察し，改善視点を提案した。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・授業内で参考となる資料,文献を紹介・配布する。
。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　自由に来てください。

場所：　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業科目の趣旨と到達目標の説明を受ける）** ・地域の教育施設や学校園等のフィールドワークを行うこと ・地域の教育施設や学校園等にボランティアあるいはインターンシップとして参加すること ・参与観察および関係者へのインタビュー等を通して，教員や教育職員，子供，保護者が抱えている課題は何かを探求すること ・探求方法として，ケースメソッドによる省察を行うこと ・省察的実践とケースメソッドについての理論的な理解を踏まえながら，本授業で関与している事例について，学問領域，校種，年齢，学校と地域などの領域を越えて，事例を多角的・多面的に省察していくこと ○協力学校園，施設でのケースを収集する。	本授業の趣旨を理解し，各フィールドにおける課題の見通しをもつ	4時間
第2回	**自己の実践課題の発掘（課題発見の視点を探る。）** 地域の教育施設や学校園等のフィールドワークに際して，どのような自己の実践課題を発掘できるかを想定し，ボランティアあるいはインターンシップへの見通しをもつ。 ・対象となる施設に対する自己の課題意識 ・対象となる施設に関する課題データ(書籍，インターネット) ○　それぞれが収集したケースについて議論し，課題を探り，自己の研究課題を設定する。	自己の実践課題の方向の見通しをもつ	4時間
第3回	**自己の実践課題の具現化（何を問題としなけれならないか？）** ○　発掘した自己の研究課題の中から問題を絞る。 ・問題の対象となるのは誰か？（例えば，園長，施設長，教職員，教育職員，子供，保護者） ・問題の対象となるのは何か？（内容，規則，時間，施設，人手等）	実践課題について，何を問題とすべきかを明確にする	4時間
第4回	**自己の実践課題の解決に関する思索（自己の実践課題の解決を教育方法学的に接近する）** 問題について収集したデータを整理し，分析することで，自己の実践課題を探求するための方法，手立てについての計画を策定する。そのために，課題，現状，原因，根拠等の視点から議論を行う。	自身の実践課題の解決に向けた方策について，関連する文献を収集し，講読することで検討する。	4時間
第5回	**協力校でのインターンシップ⑴（小学校・幼稚園・保育所）** 自己の研究課題に基づき，協力学校園での参与観察や教職員へのインタビューを通して実践課題への見通しを具体化し，何を問題とすべきかを明確にしていく。 ・状況把握 ・質問	自身の改善策について，多面的に検討すること。	4時間
第6回	**小学校・幼稚園・保育所での学校観察の振り返りと省察（協力学校園の教員と意見交流し，実践課題を指定する。** 自己の研究課題に関して具体化した問題について協力学校園の教職員と意見交換し実践課題を措定する。 ・協力学校園の問題を受け止める。 ・協力学校園の問題を見つける。 ・協力学校絵の問題をつくり出す。	自身の実践課題と照らし合わせて，課題の明確化を図るとともに，改善案を具体化する。	4時間
第7回	**協力施設でのインターンシップ⑵　（地域の教育施設）**	自身の実践課題と照らし合わせて，観察・調査したことがらをもとに改善策を策定すること。	4時間

	自己の研究課題に基づき，地域の教育施設での参与観察や職員へのインタビューを通して実践課題への見通しを具体化し，何を問題とすべきかを明確にしていく。 ・状況把握 ・質問		
第8回	**地域の教育施設観察の振り返りと省察（協力施設の教員と意見交流し，実践課題を指定する。** 自己の研究課題に関して具体化した問題について地域の教育施設の職員と意見交換し実践課題を措定する。 ・協力学校園の問題を受け止める。 ・協力学校園の問題を見つける。 ・協力学校絵の問題をつくり出す。	自身の改善策を検討し，改善策を再策定すること。	4時間
第9回	**地域・学校園の教育課題に応える⑴　課題の探求** 自己の実践課題を省察し，地域の教育施設や学校園の実践課題及び改善作をを探求するとともに，取り組みの計画を策定する。	選定した課題及び改善策について，取り組みの計画を策定すること。	4時間
第10回	**地域・学校園の教育課題に応える⑵　構想** 地域の教育施設や学校園の実践課題解決のための方策を構想する。	実践課題に基づく計画案を充実させること。	4時間
第11回	**地域・学校園の教育課題に応える⑶　構想の構築** 地域の教育施設や学校園の実践課題解決のための方策を構想を構築し，計画に沿った実施の評価を行う。	計画案に沿った実施の評価を行うこと。	4時間
第12回	**実践課題の応ずる構想発表⑴　協力学校園からの指導** 協力学校園の実践課題解決のための構想を発表し，協力学校園から指導を受ける。	関係者から受けた指導と助言の内容を直ちに取り組み（案）に反映させること。	4時間
第13回	**実践課題の応ずる構想発表⑵　地域の教育施設からの指導** 地域の教育施設の実践課題解決のための構想を発表し，協力施設から指導を受ける。	これまでの取り組みについて整理し，まとめること。	4時間
第14回	**「地域・学校実践フィールド研究」フォーラムへの準備（実践課題に応ずる授業実践の発表と内容と方法を準備する。）** 本授業で取り組んだ実践課題に応ずる解決への構想についての発表内容と方法についての準備を行う。 【スライド作成】	プレゼンテーションの練習は各自で行っておくこと。	4時間
第15回	**「地域・学校実践フィールド研究」フォーラム（実践課題に応ずる実践構想を発表する）** 本授業で取り組んだ実践課題に応ずる解決への構想についての実践構想を発表する。 【プレゼンテーション】	仲間のプレゼンテーションをふり返り，自身の実践課題の設定とその解決法について，再度，思索しておくこと。	4時間

435

授業科目名	**地域・学校実践演習Ⅱ**				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校教諭として14年間勤務の後、教育委員会指導主事として教育相談を7年間担当した。その後、公立中学校スクールカウンセラーを務めている。【全15回】				

授業概要

本授業は、我が国の教育が直面する不登校・いじめ・子育て不安等の今日的教育課題を、学校や家庭、地域を包括的に捉える視点からの解決をめざし、とりわけ、心理教育が担う役割や具体的方策を中心に、理論的、実践的に検討する。子どもや保護者、子どもの支援に関わる人々を対象とする心理教育を実践するためにカウンセリング心理学の理論やスキルを習得し、生徒指導・教育相談に係る力量や家庭・地域教育支援に関する資質の向上を図り、教員や保護者等への適切な支援・助言ができる力量を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答	子どもや教員・保護者等への適切な支援・助言ができる力量を身につける。	子どもや教員・保護者等を支援する理論とスキルの習得
汎用的な力		
1. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答		具体事例に対して、適切な方針を打ち出せる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート・課題ワークシート	60 %	： 本科目で取り上げる課題について、経験や先行研究に基づく現状分析と、授業を通じての今後の展望についての考察を評価する。
プレゼンテーション	40 %	： 担当した課題に関するプレゼンテーションと、それに用いた資料によって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・上地安昭編著『教師カウンセラー実践ハンドブック』金子書房　2010年　ISBN 9784760823581
・山崎勝之・戸田有一・渡辺弥生編著『世界の学校予防教育』金子書房　2013年　ISBN 9784760888016
・文部科学省『生徒指導提要』教育図書　2010年　ISBN　9784877302740

他は，授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業日の授業時間前後

場所： 中央館5階127研究室

備考・注意事項： ※対面の質問は予約して下さい。
メールでの質問にもお応えします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**地域と学校における子どもたちの現状と課題** ライフサイクルの変化、ネット社会の進展、準拠集団の変容、「やさしさ」の変容、反抗期が無い子どもたちの増加等、家庭を含む地域と学校における子どもたちの現状と課題を読み解く。 併せて、カウンセリング心理学を基にした地域教育や学校教育を展開する際の基本となる個への接し方を学ぶ。	地域・学校実践演習Ｉの振り返り	4時間
第2回	**地域と学校の課題を考えるための事例検討の在り方** 地域と学校の課題を検討するためのツールとしての事例検討の在り方を学ぶ。	本時の復習と次時の予習レポートの作成	4時間
第3回	**教育環境としての学校の現状と課題1** いじめ、不登校・中退、学級の「荒れ」、体罰、非行等の学校教育の諸問題を概観する。 併せて、カウンセリング心理学を基にした地域教育や学校教育を展開する際の基本となる人間関係づくりを学ぶ。	本時の復習と次時の予習レポートの作成	4時間
第4回	**学校教育の課題を検討する１** 学校教育の諸問題から取り上げた事例について検討する。	本時の復習と次時の予習レポートの作成	4時間
第5回	**教育環境としての地域の現状と課題1** 社会構造の変化、格差社会、地域コミュニティの変容、子どもの貧困、児童虐待、子育て支援、社会教育、児童福祉施設等、教育環境としての地域の現状と課題を考察する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育について、そのアセスメントの在り方を含めて概観する。	本時の復習と次時の予習レポートの作成	4時間
第6回	**地域教育の課題を検討する１** 地域教育の諸問題から取り上げた事例について検討する。	本時の復習と次時の模擬実践の準備	4時間
第7回	**教育環境としての学校の現状と課題2** 「チーム学校」、多文化共生、PTA、学童保育・放課後子ども教室、学校不信等の教育環境としての学校の現状と課題を整理する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の具体例として、構成的グループエンカウンターを学ぶ。	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
第8回	**学校教育の課題を検討する2** 受講者がらの学校教育に関する具体的事例をテーマとして、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。	本時の復習と次時の模擬実践の準備	4時間
第9回	**地域教育の課題を検討する2** 受講者がらの地域教育に関する具体的事例をテーマとして、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の具体例として、ソーシャルスキル教育について学ぶ。	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
	受講者がらの地域教育に関する具体的事例をテーマとして、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の具体例として、社会性と情動を育てる学修（SEL）について学ぶ。		
第11回	**学校と地域の連携の現状と課題1** 郷土教育、地域スポーツクラブ、文化活動、山村留学、ボランティア活動、NPO・行政機関の地域包括型支援等の学校と地域の連携の現状と課題を整理する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の実践計画を立案する。	本時の復習と次時の予習レポートの作成	4時間
第12回	**地域と学校の協働に関する課題を検討する1** 受講者がらの地域と学校の協働に関する具体的事例をテーマとして、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
第13回	**学校と地域の協働** 学校運営協議会、学社連携、社会的包摂等、学校と地域の協働のあり方を考察する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の実践計画を立案する。	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
第14回	**地域と学校の協働に関する課題を検討する2** 受講者がらの地域と学校の協働に関する具体的事例をテーマとして、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。	最終レポートの作成	4時間
第15回	**まとめと課題** 成果と課題のプレゼンテーションを行う。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の模擬実践を行う。	本時の復習と課題レポートの作成	4時間

		4時間

435

授業科目名	**現代教育実践学Ⅰ（臨床教育学）**				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	家庭裁判所調査官として心理学、社会福祉学、教育学などの専門的な知識や技法を活用し、家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた「調査」や「調整」を担当。（全15回）				

授業概要

臨床教育学の基本的な研究上の課題と視点を示した上で、個から普遍への方向性を持ち、現実から出発し、具体的な問題解決を志向する臨床教育学の視座が現代の教育実践において、どのような意味をなすものなのかを考究する。具体的には、様々な課題を持った子どもの育ちに関わる実践、特に非行などの課題をもった子どもへの関わりに焦点をあて、そこでの支援実践事例をもとに、「個と個が関わりあう関係」に着目していくアプローチについて理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	個から普遍へ、子どもの育ち、支援実践をとらえる視点。	臨床教育学の視点を具体的に理解することができる。
汎用的な力		
1. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答		「個と個が関わりあう関係」に着目した支援ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業におけるテーマ別発表とディスカッション	60 %	:	事前学修の準備内容を踏まえた発表・討論への参加を総合的に評価する。
レポート	40 %	:	授業で理解した内容と自らの実践とを関連づけて、「個と個が関わりあう関係」に着目した教育の在り方についての考察を総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
河合隼雄	・ 臨床教育学入門	・ 岩波書店	・ 1995 年

参考文献等

バイステック,F.P.／尾崎 新訳 『ケースワークの原則―援助関係を形成する技法』新訳改訂版 誠信書房、2006年 ISBN：9784414604047
ガーゲン, K./ 東村知子訳 『あなたへの社会構成主義』ナカニシヤ出版、2004年 ISBN：9784888489157
小林 剛・皇紀夫・田中孝彦編『臨床教育学序説』柏書房、2002年 ISBN：476012201X
日本家族心理学会編『学校臨床における家族への支援』金子書房、2001年 ISBN：9784760822980
皇 紀夫編『臨床教育学の生成』玉川大学出版、2003年 ISBN：9784472402944
山本智也『非行臨床から家庭教育支援へ』ナカニシヤ出版、2005年 ISBN：9784888489294
西川信廣・山本智也編『現代社会と教育の構造変容』ナカニシヤ出版、2018年 ISBN：9784779512650

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり４時間の授業外学修が必要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　本授業日の17時から18時

場所：　中央館２階個人研究室72

備考・注意事項：　備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「現代教育実践学１：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**臨床教育学とは何か** 臨床教育学という学問領域が創出されるに至った状況認識等を概括します。	授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第2回	**臨床教育学と人間関係諸科学との関連** 教育学・心理学・社会福祉学との関連を取り上げ、臨床教育学の学際性・実践性について理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第3回	**臨床教育学における人間観・方法論** 個から普遍への方向性を持ち、現実から出発し、具体的な問題解決を志向するという臨床教育学の人間観・方法論について理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第4回	**子どもの育ちをめぐる動向と課題　子どもの問題行動を中心に** 子どもの問題行動を中心として、様々な課題を持った子どもの育ちに関わる実践を考えていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第5回	**臨床教育学の視点(1) 文化・社会のなかの教育** 河合隼雄（1995）『臨床教育学入門』をもとに、文化・社会のなかの教育について考えていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第6回	**臨床教育学の視点(2) 個性の教育** 河合隼雄（1995）『臨床教育学入門』をもとに、個性の教育について考えていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第7回	**臨床教育学の視点(3) 教育における人間関係** 河合隼雄（1995）『臨床教育学入門』をもとに、教育における人間関係について考えていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第8回	**子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(1) 支援者としての基本的態度** 「個と個が関わりあう関係」に焦点をあてた支援者としての基本的態度について理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第9回	**子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(2) ハーシの社会的絆理論** ハーシの社会的絆理論を取り上げ、子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点について理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第10回	**子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(3) フレイレの課題提起型教育** フレイレの課題提起型教育を取り上げ、子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点について理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第11回	**子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(4) ストレングス・モデル** 健康な面に着目するというストレングス・モデルを取り上げ、子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点について理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第12回	**子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(5) ユースワークの視点** 若者の自立を支援するユースワークを取り上げ、子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点について理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間

第13回	**子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点(6) 解決に焦点を当てたアプローチ** 問題に焦点をあてるのではなく、解決に焦点をあてるというシズテムズ・アプローチを取り上げ、、子どもの育ちに関わる支援実践をとらえる視点について理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第14回	**ヒューマンサービスとしての臨床教育学(1) 正義の倫理とケアの倫理** コールバーグの道徳性発達理論への批判として、ギリガンが提起した「ケアの倫理」をもとにヒューマンサービスとしての教育の在り方を検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第15回	**ヒューマンサービスとしての臨床教育学(2) ヒューマンサービスの専門性** ヒューマンサービス：対人援助という概念のもとに多様な学問領域を統合していこうとする動きを踏まえて、今後の臨床教育学の方向性を検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間

435

授業科目名	**現代教育実践学Ⅱ（幼児教育学）【2024年度開講せず】**				
担当教員名	石田貴子				
学年・コース等	1・2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、日本及び諸外国の教育・保育思想や理論、先駆的な実践について学び、幼児教育・保育を概括的に捉えて、幼児教育・保育の基本的な考え方への理解を深める。それを踏まえて、現代日本及び諸外国のさまざまな幼児教育・保育実践に触れ、子どもの発達にふさわしい実践が展開されるためのカリキュラム作成の基礎的研究を行う。具体的には、授業各回で示すキーワードを中心に、関連する文献を読みながら理論及び実践を分析し検討する形で進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	幼児教育・保育の概括的な理解と現代の課題発見	幼児教育・保育の思想や歴史、理論を踏まえ、今日の課題に対応するカリキュラムや実践構想の視点を持つことができる。
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		自らの教育・保育実践を省察し、学びを踏まえて創造的に問題解決を考えようとすることができる。
2. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答		自己の考えを客観的に分析し、他者の考えを尊重しつつ適切に述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前ワークシート	30 %	： 授業各回で事前に出された課題に適切に取り組んでいるかを、事前ワークシートをもとに評価する。
授業内での課題達成（ミニレポート）	30 %	： 授業各回のテーマを適切に把握し、学習目標を達成できているかを、授業内で作成するミニレポートをもとに評価する。
授業への積極的参加・貢献	15 %	： 授業各回での発言・発表など、積極的に参加・貢献しているかを評価する。
最終レポート	25 %	： テーマに対し、自らの視点をもって取り組み、論理的に文章化されているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・民秋言（編者代表）（2017）『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林

・汐見稔幸・松本園子・髙田文子・矢治夕起・森川敬子（2017）『日本の保育の歴史』萌文書林
・倉橋惣三（2008）『幼稚園真諦』（倉橋惣三文庫①）フレーベル館
・ジョン・デューイ　市村尚久訳（1998）『学校と社会　子どもとカリキュラム』（講談社学術文庫）講談社
・フレーベル　新井武訳（1964）『人間の教育』（上）（下）（岩波文庫）岩波書店
・泉千勢編著（2008）『プロジェクト型保育の実践研究』北大路書房
・髙山和子（2014）『環境構成の理論と実践』エイデル研究所
・お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校（2006）『子どもの学びをつなぐ－幼稚園・小学校の教師で作った接続期カリキュラム－』東洋館出版社
・柏女霊峰（2015）『子ども・子育て支援新制度を読み解く』誠信書房
※ほか、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

自らの教育・保育経験や教育・保育観を大切にしながらも、そこにとどまることなく、新たな知見や異なる考え方に触れて常に自らを問い直す姿勢で臨んでください。各回で取り上げる具体的な文献や実践事例などは、受講生の希望や関心に応じて柔軟に対応します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で伝達します

場所：　中央館２Ｆ研究室

備考・注意事項：　e－mail：ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
メールには、科目名（現代教育実践学Ⅱ）、所属、学籍番号、氏名を書き入れてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション** シラバスを用い、本授業の目的、計画、進め方、評価等について知る。合わせて、受講生の関心や研究テーマを紹介し合い、共有することで、これからの授業に参加する上での基盤をつくる。	各自の関心や研究テーマについて、まとめておく。	4時間
第２回	**キーワードで考える幼児教育・保育（１）「教育」「学校教育」「幼児教育」「保育」** 「すべての子どもに質の高い幼児期の学校教育及び保育の総合的な提供を行う」施設として登場した「幼保連携型認定こども園」の位置づけを手掛かりに、「教育」「学校教育」「幼児教育」「保育」の意味について考える。	教育・学校教育・幼児教育・保育の意味についてまとめておく。	4時間
第３回	**キーワードで考える幼児教育・保育（２）「教師」と「保育者」** 幼稚園と保育所のカリキュラムや保育実践の映像の比較、保育実習記録と保育実践記録の比較などを通し、「幼児教育」「保育」に携わる専門職としての「保育者」のあり方と成長について考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間
第４回	**キーワードで考える幼児教育・保育（３）「遊び」と「活動」①** デューイやフレーベルなどの思想を手掛かりに、「遊び」と「活動」の意味について考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間
第５回	**キーワードで考える幼児教育・保育（３）「遊び」と「活動」②** プロジェクト型保育の実践事例を取り上げ、遊びから活動への移行について考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間
第６回	**キーワードで考える幼児教育・保育（４）「生活」と「経験」①** デューイや倉橋惣三などの思想と先駆的実践を手掛かりに、「生活」と「経験」の意味及び保育のカリキュラム編成について考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間
第７回	**キーワードで考える幼児教育・保育（４）「生活」と「経験」②** 自然の中での生活を重視した実践や、情報化社会への適応を意識した実践など、さまざまな保育の事例を取り上げ、「生きる力」を育む生活と経験のあり方について考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間
第８回	**キーワードで考える幼児教育・保育（5）「環境」①** 第3回～第6回までの学びを踏まえ、「環境」を通した保育のあり方について考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間
第９回	**キーワードで考える幼児教育・保育（5）「環境」②** 日本及び諸外国の園環境をいくつか取り上げて比較し、子どもの発達にふさわしい環境構成について考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間
第10回	**キーワードで考える幼児教育・保育（６）「集団」と「個人」①** 共同体論を手掛かりに、「集団」と「個人」のあり方について考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間
第11回	**キーワードで考える幼児教育・保育（6）「集団」と「個人」②** 「気になる子」を含む保育の実践事例を取り上げ、個々の良さを生かす集団づくりとカリキュラム編成について考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間
第12回	**キーワードで考える幼児教育・保育（7）「主体性」①** 「自主性」「自発性」との違いを手掛かりに、「主体性」の意味について考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間
第13回	**キーワードで考える幼児教育・保育（7）「主体性」**	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間

	保育者の言葉かけの事例を取り上げ、子どもの主体性を育む保育者の関わりとカリキュラム編成について考える。		
第14回	**キーワードで考える幼児教育・保育（8）「連続性」①** 保幼小連携の現状と課題を、調査や事例をもとに分析し、教育や学びの連続性について考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間
第15回	**キーワードで考える幼児教育・保育（8）「連続性」②** 子ども・子育て支援新制度の現状と課題を踏まえ、園と家庭や地域の連続性について、事例をもとに考える。	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成する。	4時間

435

授業科目名	**現代教育実践学Ⅲ（教育心理学）**				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	１年	開講期間	後期	単位数	２
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

主体的で協働的な学習や深い学習、創造的問題解決力の育成など、学習観が転換する現代の教育実践をとらえる視座を得ることを目的とする。被教育者の発達と学習を中心とする教育心理学研究、教師をはじめ教育者の発達と学習に関する教育心理学研究を解題する。被教育者と教育者の両面からの考察により、関係論的な視点から教育という営みをとらえ直す。さらに、教育心理学の知見を具体的な教育実践の事例と照らしながら検討し、実践と研究の構想につなぐ機会とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	教育心理学の高度な専門知識の学修	現代の教育心理学の研究課題と、その知見を知り、批判的に考察できる。
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		教育心理学の理論を実践と往還させて考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	70 ％	： 事前学修の準備内容と討論への参加を総合的に評価する。
レポート	30 ％	： 実践事例と理論の省察性と、実践の構想力を総合して評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後に応じる。

場所： 教室または研究室（中央館２階研究室80）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学校教育と教育心理学**	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間

	現代の学校教育の課題について、教育心理学と結びつけて考え、現代の教育心理学を学ぶ意味を考えます。		
第2回	**遺伝と環境** 巻物を広げるという意味の「発達（development）」について、遺伝と環境についての教育心理学研究から検討します。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第3回	**社会的認知の発達と進化** ヒトらしい発達とは？　ヒトとチンパンジーを比較する、比較認知発達心理学研究の成果から、ヒトらししさ、ヒトらしい発達について考えます。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第4回	**知能** IQからEQ、多重知能理論へ。知能研究の変遷をたどりながら、現代の学校教育における知能観を省察します。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第5回	**身体と認知** 考えることは、頭で行うこと＝身体を使わなくなることなのか。思考に果たす身体の役割についての心理学研究に照らし、学習観や教育観を省察します。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第6回	**言語と思考** メタファーやアナロジーを中心に、創造性や問題解決の思考に関する心理学研究に照らして、子どもの思考について考えます。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第7回	**メタ認知と批判的思考** コンピテンシーの中核である反省性（リフレクシヴィティ）について、心理学のメタ認知や批判的思考に関する研究から考えます。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第8回	**構成主義の発達と学習** 能動性、環境との相互作用を重視する構成主義の発達と学習研究について検討します。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第9回	**社会的構成主義の発達と学習** 協同性を重視する社会的構成主義の発達と学習研究について検討します。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第10回	**活動主義の発達と学習** 関係性の視点から発達と学習を考える、活動主義の研究について検討します。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第11回	**教師の熟達化** 教師は、実践をとおして、どのようにわざを磨くのか。わざとは何か。教師の発達について考えます。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第12回	**実践知と実践的思考** 実践の中での実践者の知識と思考について、心理学研究に照らして考えます。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第13回	**現代教育実践の事例研究（１）　授業の省察（リフレクション）とケース・メソッド** 授業という営み＝ケース（事例）を省察しながら、実践を創造し、学んでいく教師の思考について考えます。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第14回	**現代教育実践の事例研究（２）　教科の授業を事例に** 受講者の関心に照らして、事例を選択し、その事例を協同で省察します。	次回の予習を行う。（文献の講読とレジュメの作成）	4時間
第15回	**現代教育実践の事例研究（３）　総合学習を事例に** 受講者の関心に照らして、事例を選択し、その事例を協同で省察します。	最終レポートの作成	4時間

435

授業科目名	現代教育実践学Ⅳ（発育発達学）				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	１年	開講期間	後期	単位数	２
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

身体の発育・発達は多くの要因によって変化し、生涯の健康に大きな影響を与える。特に生涯の健康にとって幼児期の発育発達は大きく関与しており、正しい発育発達の促進と健康の保持増進は、子どもの生きる力を育み、学力や非認知能力を高めることに貢献する。また現在の子どもを取り巻く生活環境の変化から、予防医学的見地からの健康課題も多く多様な研究報告がなされている。そこで本科目では子どもの発育発達を科学的根拠を基に解説すると共に子どもの発育・発達問題等に関する調査データを読み解きながら課題を解決を進めていく。さらに教育・医療・福祉分野で実際に実施されている発育発達を評価する測定方法についても知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	発育発達学の知識の修得と教育実践	身体の構造と機能、さらには発育発達と老化を理解し、それに関わる健康教育や運動指導の具体的方法を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		発育・発達問題等に関する調査データを読み解きながら課題解決方法を具体的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
テーマ毎に測定評価し、レポート提出	60 %	：	事前学修の準備内容を踏まえ、テーマごとに測定評価し、提出したレポートを総合的に評価する。
授業への取り組みや態度	40 %	：	事前学修、授業中に於けるグループ学習、発表等を総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1) １から学ぶスポーツ生理学、中里浩一・岡本孝信・須永美歌子（有限会社ナップ、2016年、ISBN9784905168423）
2) 基礎生理学、安谷屋均（東洋書店、2008年、ISBN9784885958069）

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり４時間の授業外学修が必要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 中央館2階研究室

備考・注意事項： 授業初回に連絡する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーテーション** 授業計画、履修上の注意、評価の方法等の説明	授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第2回	**発育発達と運動** 発育発達とは？生命の誕生から20歳の成人式まで、発育発達・老化と運動の関係等について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第3回	**体格の発育** 各自の身長、体重、胸囲を測定し、評価する。文献、資料を基に0歳から20歳における男女の身長、体重、胸囲の発育について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第4回	**骨・筋の発育発達** 各自の骨密度、筋力を装置を使って測定し、評価する。文献に資料を基に３歳から80歳における男女の骨密度、筋力の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第5回	**体力・運動能力の発育発達** 各自の体力・運動能力を器具を使って測定し、評価する。文献に資料を基に３歳から80歳における男女の体力・運動能力の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第6回	**神経系の発達** 各自の心拍数、体温、ストレス度を装置を使って測定し、評価する。文献に資料を基に３歳から80歳における男女の心拍数、体温、ストレス度の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第7回	**活動量の発達** 各自の心拍数、歩数、運動量を装置を使って測定し、評価する。文献に資料を基に３歳から80歳における男女の心拍数、歩数、運動量の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第8回	**脳の発達と運動** 文献・資料を基に0歳から20歳における脳の発達と運動について学習し、レポートにまとめる	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第9回	**呼吸循環器系の発達** 各自の肺活量、血圧、心拍数を器具を使って測定し、評価する。文献に資料を基に３歳から80歳における男女の肺活量、血圧、心拍数、酸素摂取量の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第10回	**こころの発達** 文献・資料を基にこころとは？　0歳から20歳におけるこころの発達と運動について学習し、 レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第11回	**社会性の発達** 文献・資料を基に社会性とは？　0歳から20歳における社会性の発達と運動について学習し、 レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第12回	**栄養と発育発達**	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間

	文献・資料を基に0歳から20歳における食生活の変化と運動について学習し、 レポートにまとめる。		
第13回	**運動・栄養・休養** 文献・資料を基に0歳から20歳におけ運動・栄養・休養について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第14回	**発育発達期に多い怪我や病気** 文献・資料を基に0歳から20歳における怪我や病気について学習し、レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第15回	**年齢段階にに応じた運動指導** 文献・資料を基に0歳から20歳における発育発津達に応じた適切な運動指導について学習し、 レポートにまとめる。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間

授業科目名	**現代教育実践学Ｖ（教育社会学）**				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	１年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

今日の教育をめぐる諸問題について、教育社会学の視点から検討する。教育社会学では、教育事象を広く社会とのかかわりの中でとらえ、その意味を考察するため、扱うテーマは多岐にわたり、例えば、近代学校制度、教師集団、学力問題、市民社会、教育改革などが挙げられる。本科目では、最初に、教育社会学における基本的な考え方について学んだ後、これらの教育テーマについて検討し、教育者としての幅広い視野と知識を身に着けることをめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	文献・研究論文を通じて、教育社会学に関する知見を検討する。	教育社会学に関する学術的理論を理解することが出来る。
汎用的な力		
1. DP４.客観的・論理的考察の展開による独創的・有用な研究の遂行		先行知見を理解した上で、独自性を持つ研究課題を設定することが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業で扱った教育社会学にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示すことができる点を評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	70 %	： 授業で扱った教育社会学にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示すことができる点を評価する。
授業で示す課題	30 %	： 授業で扱った教育社会学にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示すことができる点を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜授業内で示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業でお知らせします。

場所：　中央館5階研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**教育社会学の考え方①：教育社会学の誕生** 教育社会学の歴史を振り返り、教育社会学が誕生した背景について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第２回	**教育社会学の考え方②：教育社会学の理論** 教育社会学の歴史を振り返り、代表的な理論について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第３回	**教育社会学の考え方③：教育社会学の今日的テーマ** 教育社会学の歴史を振り返り、今日課題となっているテーマや今後の展開について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第４回	**近代学校という制度** 近代において学校制度が誕生した歴史やその機能について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第５回	**地域社会と教育** 教育と地域社会のかかわりについて検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第６回	**教師と生徒の関係** 日本における教師と生徒の関係の特徴について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第７回	**グローバリゼーションと教育** グローバリゼーションが進む今日の教育の現状について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第８回	**市民社会と教育** 市民教育の歴史・現状と課題について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第９回	**世界の学力政策** 諸外国の学力政策について新自由主義との関係から検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１０回	**教育における選抜と排除** 教育がもたらす選抜と排除の機能について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１１回	**教育格差と再生産** 教育格差の現状と再生産の仕組みについて検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１２回	**教育格差と社会関係資本** 教育格差の再生産において社会関係資本が果たす役割について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１３回	**教育格差是正への試み** 教育格差是正の可能性について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１４回	**教育改革と学校** 今日の教育改革の特徴と展開について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１５回	**これからの学校教育** 学校教育の可能性を教育社会学の視点から検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間

435

授業科目名	**研究方法論Ⅰ**				
担当教員名	保田直美				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育学研究に必要な方法論や研究事例を学び,教育学研究を行うために必要な知識や技能を身につける。具体的には 教育・保育を多角的に分析するための視点や方法を修得するために、質的及び量的アプローチによる研究の手法を学ぶことが目的である。とりわけ本科目では、社会調査法に依拠しつつ、エスノグラフィーの技法や、統計解析を用いた数量データの分析方法について学習した上で、それぞれの研究をデザインできる力の獲得を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答	研究方法	教育学研究を行うために、社会調査法を用いた研究をデザインすることができる。
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		研究方法を理解し、自らの問題と関連付けてデザインすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として、規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内で示す課題	60 %	： 社会調査の方法に関する文献を理解し、他者に説明することができる。自らの研究上の問題と関連付けて考えることができる。
期末レポート	40 %	： 社会調査の方法を理解し、自らの問題と関連付けて調査をデザインすることができる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

佐藤郁哉, 2015, 『社会調査の考え方[上]』東京大学出版会. (ISBN：9784130520263)
佐藤郁哉, 2015, 『社会調査の考え方[下]』東京大学出版会. (ISBN：9784130520270)
藤原文雄ほか編著, 2010, 『学校組織調査法―デザイン・方法・技法』学事出版. (ISBN：9784761917548)

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり４時間の授業外学修が必要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室または中央館5階研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション：社会調査とは** 社会調査では、理論とデータと方法の間でバランスをとりながら、リサーチクエスチョンに対する答えを実証的に探求する。社会調査とはどのようなものか、どのようなプロセスでそれは行われるのか、その概要を学ぶ。	授業内容を配布資料を用いて復習する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第２回	**問いを立てる** 社会調査において問いを立てる際には、①実証可能性と②学問的・社会的な価値・意義と③資源的条件を考慮することが大切である。それらを踏まえて、自身の研究上の問題関心について再検討する。	再度自身の研究上の問いを整理する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第3回	**仮説を立てる** 問いに対する仮の答えである仮説をいったん持つことは、量的調査に多い仮説検証型の調査でも、質的調査に多い仮説生成型の調査でも、必要である。自身の研究上の問いに対する仮説を考えてみる。	再度自身の仮説について検討する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第4回	**調査の見通しを立てる** どのようなデータを収集し、最終的にどのような集計表や一覧表を論文に示すつもりか、あらかじめイメージを持ちつつ、調査の手順やプラン、スケジュールを考えることをリサーチデザインという。自身の問いを探求する際のリサーチデザインをおおまかに検討してみる。	再度自身のリサーチデザインについて検討する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第５回	**サンプリング** 統計的サンプリングと理論的サンプリングの基礎について理解し、自身の場合どのように調査対象を定めていくことが望ましいか検討する。	授業内容をレジュメや配布資料を用いて復習する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第６回	**測定する** 社会的な現象について測定を行う際に必要な、概念の操作的定義について理解する。また、測定に用いる質問項目（尺度や指標）の信頼性や妥当性、変数の種類などについて、その基本的な考え方を理解する。	授業内容をレジュメや配布資料を用いて復習する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第７回	**個別技法：実験法** 実験の考え方を通して、適切に原因と結果の関係を考える（因果推論を行う）ために必要なポイントを理解する。	授業内容をレジュメや配布資料を用いて復習する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第８回	**個別技法：サーベイ** 質問紙調査とは何か、すぐれた質問紙調査を行うにはどのような点に留意すべきかについて理解する。質問の作り方を学習し、自身の研究上の問いについて、いくつか質問を作成してみる。	再度自身の質問文について検討する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第９回	**事例①：サーベイリサーチ** サーベイリサーチの事例として、『学校組織調査法』「第5章　学校改善を促す組織文化としての同僚性」を読み、具体的にどのように質問紙を用いた調査研究を進めるかを理解する。自身の調査研究に活かせる点はないか検討する。	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第10回	**事例②：計量的モノグラフ** 計量的モノグラフの事例として、『学校組織調査法』「第8章　保護者の学校信頼を決めるものは何か」を読み、具体的にどのように質問紙を用いた調査研究を進めるかを理解する。自身の調査研究に活かせる点はないか検討する。	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第11回	**個別技法：フィールドワーク** 現場での観察、インタビュー、エスノグラフィーなど、質的調査と呼ばれる方法の基本的な考え方を理解する。自身の研究上の関心の場合、これらの方法を用いてどのような調査設計が可能か検討してみる。	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第12回	**事例③：インタビュー調査** インタビュー調査の事例として、『学校組織調査法』「第3章　スクールリーダーの教育理念や教育観をどのように捉えるか？」を読み、具体的にどのようにインタビューを用いた調査研究を進めるかを理解する。自身の研究に活かせる点はないか検討する。	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
第13回	**事例④：エスノグラフィー**	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間

	エスノグラフィーの事例として、『学校組織調査法』「第4章　校長はどのような仕事をしているのか？」を読み、具体的にどのようにエスノグラフィーを用いた調査研究を進めるかを理解する。自身の研究に活かせる点はないか検討する。		
第14回	**学校組織での調査の実践に向けて** 学校組織で調査研究を行う場合の調査のデザインの仕方、調査を行う際に留意すべき事項について、倫理的な配慮も含めて学ぶ。	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。レポートの執筆に向けてリサーチデザインを考える。	4時間

435

授業科目名	**研究方法論Ⅱ**				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育学研究に必要な方法論や研究事例を学び、教育学研究を行うために必要な知識や技能を身につける。具体的には 教育・保育を多角的に分析するための視点や方法を修得するために、質的及び量的アプローチによる研究の手法を学ぶことが目的である。とりわけ本論では、心理学的な観点から、観察法、面接法、質問紙調査法、実験法などの各方法論の実証性と限界について理解した上で、研究課題の定め方、研究計画の立て方、研究手法の選び方、分析方法などについての学びを深めることを目的としている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	教育学の研究方法を理解する。	教育学研究に必要な方法論や研究事例を学び、教育学研究を行うために必要な知識や技能を身につける。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		修士論文のテーマと方法をみつける。
2. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		修士論文の作成にむけた研究方法を理解し修得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題（5点×15回）	75 %	： 5～4点：授業外学修を極めて丁寧に行い、演習に積極的に取り組み、構想や実践に大きく貢献している。 3点：授業外学修を丁寧に行い、演習に積極的に取んでいる。 2～１点：授業外学修をもとに、演習に参加している。
レポート	25 %	： 調査法について以下の５つの観点から評価する。①実施方法の理解、②目的にあわせた研究手法の選択、③目的にそった分析法の選択と実施、④統計解析の基本的理解、⑤研究倫理への配慮

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり４時間の授業外学修が必要である。
・初回授業で、受講者の研究関心等をふまえて、受講者の了解のもと、授業計画を変更したり、教科書を指定する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： その他連絡方法は、初回の授業で周知します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**幼児・児童を理解するさまざまな方法** 観察法、質問紙法、面接法などの研究調査と分析法を概観する。	次回の予習：研究倫理について	4時間
第2回	**教育と研究倫理** 研究実施段階における研究者の責務と倫理について理解を深め、具体的手続きについて理解する。	次回の予習：観察法を用いた先行研究の講読	4時間
第3回	**観察法①：観察法の種類と実際** 観察法を用いた先行研究を読み、その利点と限界を知る。	次回の予習：観察法を用いたデータの収集	4時間
第4回	**観察法②：データ収集と分析** 観察法を用いた調査を行い、その分析方法について理解する。	次回の予習：質問紙法を用いた先行研究の講読	4時間
第5回	**質問紙法①：質問紙法の種類と実際** 質問紙法を用いた先行研究を読み、その利点と限界を知る。	次回の予習：質問紙法を用いたデータの収集	4時間
第6回	**質問紙法②：データ収集と分析** 観察法を用いた調査を行い、その分析方法について理解する。	次回の予習：面接法を用いた先行研究の講読	4時間
第7回	**面接法①：面接法の種類と実際** 面接法を用いた先行研究を読み、その利点と限界を知る。	次回の予習：面接法を用いたデータの収集	4時間
第8回	**面接法②：データ収集と分析** 面接法を用いた調査を行い、その分析方法について理解する。	次回の予習：実験法を用いた先行研究の講読	4時間
第9回	**実験法①：実験法の種類と実際** 実験法を用いた先行研究を読み、その利点と限界を知る。	次回の予習：実験法を用いたデータの収集	4時間
第10回	**実験法②：データ収集と分析** 実験法を用いた調査を行い、その分析方法について理解する。	調査法のまとめ	4時間
第11回	**統計の基礎①：変数と尺度** 名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比例尺度および量的変数における代表値の様々を学ぶ。	復習シートの作成：変数と尺度	4時間
第12回	**統計の基礎②：基本統計量とグラフ** 記述統計量、相関係数、正規分布、標準偏差と分散などを理解する。	復習シートの作成：基本統計量とグラフ	4時間
第13回	**統計の基礎③：パラメトリック検定** T検定、分散分析を中心に仮説検定の基本について学ぶ。	復習シートの作成：パラメトリック検定	4時間
第14回	**統計の基礎④：ノンパラメトリック検定** U検定や$\chi 2$乗検定など、比率の差の検定、独立性の検定の考え方を理解する。	復習シートの作成：ノンパラメトリック検定	4時間
第15回	**研究計画と研究方法の選択** 修士論文の研究計画を見直し、研究方法について、より具体的に考える。	まとめ：研究計画と研究方法	4時間

授業科目名	カリキュラム開発特論Ⅰ（学力と評価）				
担当教員名	市川和也				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、戦後日本における学力論争に即して登場した議論や学力構造・モデル、さらにPISAのリテラシーやパフォーマンス評価等の近年の評価をめぐるトピックについて検討する。学力をめぐる問いは学校でどのような能力を育成するかを問うものであり、教育評価の基盤となる教育目標や教育目的に直結する。学力から評価に至るまで日本における学説の蓄積を検討することによって、現在の進み行く教育改革を分析する知見を得ることを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	学力および教育評価に関する基本的概念や論点に対する理解	学力および教育評価に関する基本的概念や論点を理解し、創造的に教育実践で応用することができる。
汎用的な力		
1. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答		学力および教育評価に関する基本的概念や論点を踏まえ、自己の考えを論理的に述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

3分の2以上の出席があるものを評価の対象とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	70 %	： 教育評価論の視点から先進的な実践を分析する課題において、個別の実践のみでなく、参考文献や他者の複数の意見、これまでの歴史的変遷等の視点を含め、あるいは対峙させたものを秀とする。
文献に関するレジュメ	30 %	： 指定された文献に関して、文献の論点や概要を必要十分に記載するとともに、論点に関して自身の考えを論述しているものを秀とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田中耕治	・ 教育評価	・ 岩波書店	・ 2008 年

参考文献等

各回のテーマに応じて適宜紹介、活用する。

履修上の注意・備考・メッセージ

毎回の講義に対するふりかえりをもとに、次の講義内容・討議内容を組み立てるため、シラバスの進度および扱う内容の順序については変更の可能性があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 遠隔授業のため、連絡はGoogle Classroomもしくはichikawa.kazuya.85u@gmail.comへお送りください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション** 学力とは何か、これまでにどのような議論があったのかを概観する。また、「リテラシー」の語義について考え、講義全体の課題意識を持つ。	「リテラシー」とは何か、調べて整理してくる。	4時間
第２回	**教育課程の変遷（１）戦後における生活経験主義：価値をどうやって教えるか** 生活経験主義における「学力」の捉え方や構造について、カリキュラムや実践をもとに検討する。	生活経験主義の実践から求められる「学力像」を整理する。	4時間
第３回	**教育課程の変遷（２）戦後における系統主義：教育の現代化からゆとり教育へ** 系統主義・学問中心主義における「学力」の捉え方や構造について、カリキュラムや実践をもとに検討する。	系統主義の実践から求められる「学力像」を整理する。	4時間
第４回	**学力モデルの検討（１）経験を中心としたモデル：広岡モデルの検討** 広岡亮蔵の学力モデル（三層四領域モデル）を扱い、このモデルによる広岡の主張とその背景、批判された点を踏まえて、現代的な意義や論点を検討する。	広岡モデルの意義、論点を整理する。	4時間
第５回	**学力モデルの検討（２）計測可能な学力：勝田モデルの検討** 勝田守一の学力モデルや「計測可能な学力」の考え方を扱い、このモデルによる勝田の主張とその背景、批判された点を踏まえて、現代的な意義や論点を検討する。 【ミニレポート】学力モデルの整理とあらたな提言	勝田モデルの意義、論点を整理する。	4時間
第６回	**教育評価の歴史（１）　絶対評価、相対評価** 教育評価における絶対評価、相対評価を整理し、相対評価が長く取り入れられたメリットおよび教育実践上のデメリットを検討する。	相対評価のデメリットを整理する。	4時間
第７回	**教育評価の歴史（２）　到達目標・評価論の登場と目標に準拠した評価** 到達目標・評価論における論点（習熟をめぐる段階説、平行説など）を踏まえて、目標に準拠した評価の利点・課題を検討する。	目標・評価論における到達点・課題を整理する。	4時間
第８回	**現代の学力評価論（１）　リテラシーの議論、PISA型読解力と新しい評価法** 現代の学力論について、「リテラシー」の議論をOECD/PISAの動向とともに検討する。 また、そこで必要となる新しい評価法についても触れる。	「リテラシー」の語義を整理する。	4時間
第９回	**現代の学力評価論（２）　パフォーマンス評価をめぐる議論** 現代において注目される評価論について、主にポートフォリオ評価とパフォーマンス評価について紹介し、その利点および活用方法、課題について検討する。	パフォーマンス課題・評価の事例を探し、整理する。	4時間
第10回	**現代の学力評価論（３）　ルーブリック作成から授業改善へ** パフォーマンス課題を紹介し、ルーブリック作成のワークを行う。またそれを踏まえて授業改善につなげる視点を整理する。 【ミニレポート】パフォーマンス課題とルーブリックの作成	特定のパフォーマンス課題を設定し、ルーブリックを作成する。	4時間
第11回	**現代の学力評価論（４）　新しい能力、アクティブラーニングの議論、入試改革** アクティブ・ラーニングや「主体的で対話的な深い学び」について、展開されている議論を整理する。また大学入試改革等の現状を把握する。	優れた実践や高校入試問題の特徴的なものを探してくる。	4時間
第12回	**リテラシーを問い直す実践分析（１）教科科目において** 教科科目において、パフォーマンス課題（評価）など、新しい取り組みを行っているすぐれた実践を紹介、議論する。	総合学習における優れた実践を探してくる。	4時間
第13回	**リテラシーを問い直す実践分析（２）総合的な領域において** 総合学習等の教科外の領域における、パフォーマンス課題など新しい取り組みを行っているすぐれた実践を紹介、議論する。	レポートを作成する。	4時間
第14回	**レポート交流会** 受講生の調べてきた優れた実践・評価のあり方をもとに、求められる「学力とリテラシー」、および「評価のあり方」について整理し、発表、議論する。	交流を踏まえてレポートを吟味しなおす。	4時間

第15回	**総括と質疑応答** 15回の議論の内容を整理し、レポートに学習成果を反映させられるように振り返りを行う。	レポートや学びの成果、レジュメ等を整理し、目次やまとめを作成する。	4時間

435

授業科目名	**カリキュラム開発Ⅱ（リテラシー）【2024年度開講せず】**				
担当教員名	（　　）				
学年・コース等	1・2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

436

授業科目名	カリキュラム開発特論Ⅲ（身体と健康）				
担当教員名	安部恵子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

子どもの学びの履歴としての体育科教育のカリキュラムを開発し実践できる力を育てるために、児童・生徒が主体的に取り組むための学習指導に焦点をあてて、カリキュラム開発のあり方について理解を深める。また、予防医学的見地からみた健康と身体について考察する。中でも本講義では、身体活動と健康、スポーツと健康の相関的・相乗的な関係の基本理念について、生理的・医科学的な特徴と関係から概説する。また現代社会における子どもの身体に関する健康課題について、最新の科学的根拠を基に解説し、保育・教育現場で実践可能な解決法の

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	子どもの身体活動を医科学的に理解できる	子どもの身体の機能と構造を理解できる。

汎用的な力	
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	予防医学的見地および科学的根拠を基に教育現場における課題とその要因を抽出できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

3分の2以上の出席があるものを評価の対象とする

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
問答法・コメントを求める	60 %	： 参考文献および先行研究論文を基に考察、科学的根拠を基にした考察を行った上での問答法とする
課題レポート	40 %	： テーマに関する参考文献および先行研究論文を基に考察、科学的根拠を基にした考察を行うこと

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、印刷し配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

毎回の講義における受講者の情況に応じて、シラバスの進度および内容の順序を変更する場合があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 17時から21時

場所： 中央館2階７２

備考・注意事項： 木曜日の17時～21時：研究室にて対応可能。もしくは、本授業受講生にメールアドレスを提示します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**子どもの身体の機能と構造について** 本講義の目当てと評価方法について解説後、子どもの身体の機能と構造について解説する。 特に、成人との相違点を理解した上で、子どもの形態の経年変化と特性について解説する。	成人の身体の機能と構造について事前学習する。	4時間
第2回	**運動が子どもの体に及ぼす影響について（1）呼吸循環器系** 運動（身体活動)が子どもの体に及ぼす影響を解説する。特に、呼吸循環器機能、心拍数、心拍出量について理解し、成人との相違点と特性について解説する。	呼吸循環器機能につて事前学習する	4時間
第3回	**運動が子どもの体に及ぼす影響について（2）エネルギー供給機構** 運動（身体活動)が子どもの体に及ぼす影響を解説する。特に、エネルギー供給機構について理解するとともに運動強度についても触れる。	エネルギー供給機構について事前学習する。	4時間
第4回	**運動が子どもの体に及ぼす影響について（3）小児肥満** 肥満の定義と評価基準及び方法について解説する。また小児肥満について、医科学的根拠を基にその特性と成人との相違点について解説する。	肥満について事前学習する。	4時間
第5回	**子どもの身体活動について　（1）予防医科学的見地からの身体活動** 予防医学および身体活動の定義と測及び基準について解説する。また、現在の子どもを取り巻く社会背景を踏まえ、科学的根拠を基に課題を抽出しその要因について考察する。	予防医学について事前学習する（文献研究）。	4時間
第6回	**子どもの身体活動について　（2）身体活動量の測定方法と意義** 身体活動の定義と測定方法及び基準について解説する。また、現在の子どもを取り巻く社会背景を踏まえ、科学的根拠を基に身体活動の現状を把握する。	身体活動について事前学習する。	4時間
第7回	**子どもの身体活動について　（3）子どもの身体活動量の現状と課題** 科学的根拠を基にした幼稚園、小学校現場における身体活動の現状について解説する。また、教育現場での課題について考察し、その要因について考察する。	教育現場での身体活動について事前学習する（文献研究）。	4時間
第8回	**科学的根拠を基にした体育科教育　（1）体力の概念と測定の意義と評価** 体力の定義および行動体力、防衛体力について解説する。また、測定方法とその意義と活用法、注意転を理解する。	体力測定について事前学習する（文献研究）。	4時間
第9回	**科学的根拠を基にした体育科教育　（2）体育授業の意義と課題** 小学校指導要領（体育）の読み解きと改訂の意義と内容について解説する。また、幼児期の運動指針策定の意義について理解し、体育授業の現状と課題と要因について考察する。	幼児期の運動指針について事前学習する。	4時間
第10回	**科学的根拠を基にした体育科教育　（3）体育授業における身体活動量** 体育授業の身体活動量について科学的根拠を基に解説する。また、運動領域に基づいて、1種目選択し、その現状把握を目的としたフィールドワークを行う。	体育授業時の身体活動量について事前学習する（文献研究）。	4時間
第11回	**新しい体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの開発（1）フィールドワークの検証** フィールドワークで得られた情報を基に現状把握を行う。また、課題抽出を行いその要因を考察する。	フィールドワークで得られた情報の検証	4時間
第12回	**新しい体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの開発（2）アクションプランづくり** フィールドワークで得られた情報を基に現状把握を行う。また、課題抽出を行いその要因を考察する。	フィールドワークで得られた情報の検証	4時間
第13回	**新しい体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの開発（3）結果検証および省察** フィールドワークで得られた情報を基に現状把握、課題抽出を行いその要因を考察し、その解決策を提案する。	フィールドワークで得られた情報の検証および提案	4時間
第14回	**体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの研究事例の発表・ディスカッション** 13回目で得られた解決策を実践し、結果報告階を行いディスカッションする。	発表準備を行う	4時間
第15回	**フィールドワーク先への研究事例の報告とまとめ** 本講義で得られた専門知識を踏まえ、フィールドワークで得られた科学的根拠の検証および提案について報告をまとめる	報告資料作成	4時間

436

授業科目名	**カリキュラム開発Ⅳ（表現）【2024年度開講せず】**				
担当教員名	**岡林典子**				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業科目名	カリキュラム開発特論Ⅴ（集団学習論）				
担当教員名	福嶋祐貴				
学年・コース等	1･2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

国内外の集団学習論に関する議論を歴史的・批判的に検討するとともに、集団学習の中でもとりわけ「協働的な学び」とその評価のデザインの在り方を考える。国内外を問わず、これまで様々な集団での学びに関わる理論や実践が提起されてきた。集団での学びは、当初は経済的効率の観点から取り入れられたものであったが、次第に集団の中で学習者同士が織りなす相互作用に注目が集まるようになり、今では主体的・対話的で深い学びを実現するための重要な要素として位置づけられている。しかしそうした学びを実現し、適切に評価していくのは決して容易なことではない。本科目では、協働的な学びに関わる多彩な理論やモデルに学びながら、それらを批判的に分析・比較検討することで、協働的な学びと評価をデザインし、集団での学習を基礎とするカリキュラムを分析・開発・改善できる視座・力量を身につけることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	集団学習論についての知識	集団学習論についての理論や概念、歴史および関連する近年の教育課題について的確に説明することができる。
2. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	集団学習論の視点からの実践の省察および課題解決策の探究	集団学習論についての理論や概念を生かして、自身の教育実践の成果と課題を明らかにし、課題解決の具体策を提案できる。
汎用的な力		
1. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答		集団学習論を糸口として、協働的な学びに対する自身の考えを批判的に捉えなおし、他者に提起するとともに、他者と建設的に議論を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上欠席した場合は履修放棄とみなし、成績評価の対象としない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
文献についての発表	30 %	： １．文献の正確な理解 ２．他の資料の適切な活用 ３．分析の観点の明確さ
発表についてのコメント及び授業中の発言	30 %	： １．建設性 ２．説得性 ３．積極性
レポート	40 %	： １．論理性 ２．資料の引用 ３．独自性

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本協同教育学会編（2019）『日本の協同学習』ナカニシヤ出版（ISBN: 9784779514166）
福嶋祐貴（2021）『米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜』東信堂（ISBN: 9784798916798）
その他、授業中に適宜参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業前には授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められるため、各授業回あたり４時間の授業外学修が必要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 初回の授業で明示します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション　「協働的な学び」とは何か** オリエンテーションを通して、授業の目的、進め方、課題、参加の仕方等について理解する。「主体的・対話的で深い学び」、「令和の日本型学校教育」について受講生間で意見交換を行うとともに、PISA2015における「協働問題解決」の評価を体験することで、協働的な学びと評価に関する課題を共有する。	自分の教育体験および教育実践について集団学習論の視点から省察し、自らの関心と課題について考察する。次の授業に向けて文献講読を行う。発表担当者は発表準備を行う。	4時間
第2回	**日本の集団学習・概論（１）教育心理学の場合** 教育心理学における集団学習理論、とりわけバズ学習の理論的・実践的展開について理解を図り、その特徴と課題を考察する。	次の授業に向けて文献講読を行う。発表担当者は発表準備を行う。	4時間
第3回	**日本の集団学習・概論（２）教育社会学の場合** 教育社会学における集団学習理論、とりわけ個集研による集団学習の理論・実践について理解を図り、その特徴と課題を考察する。	次の授業に向けて文献講読を行う。発表担当者は発表準備を行う。	4時間
第4回	**日本の集団学習・概論（３）教育方法学の場合** 教育方法学における多彩な集団学習理論について理解を図り、その特徴と課題を考察する。	次の授業に向けて文献講読を行う。発表担当者は発表準備を行う。	4時間
第5回	**日本の集団学習・各論（１）学びの共同体と学習集団** 「学びの共同体」論と学習集団論との対比を通して、日本型学校教育における集団学習の課題を考察する。	次の授業に向けて文献講読を行う。発表担当者は発表準備を行う。	4時間
第6回	**日本の集団学習・各論（２）学習集団論争** 学習集団をめぐって行われた論争の論点とそれぞれの論者の理論について理解を図り、学習指導と生活指導との関係を考察する。	次の授業に向けて文献講読を行う。発表担当者は発表準備を行う。	4時間
第7回	**日本の集団学習・各論（３）二つのジグソー法** 日本に取り入れられたElliot Aronsonのジグソー法のオリジナルと、近年盛んに実践されている知識構成型ジグソー法との対比を通して、集団学習における教育目標の在り方を考察する。	次の授業に向けて文献講読を行う。発表担当者は発表準備を行う。	4時間
第8回	**米国の集団学習・概論　cooperationとcollaboration** 米国の集団学習を支える二大概念であるcooperative learningとcollaborative learningの対比についての議論を概観することで、前時の考察をさらに深める。	次の授業に向けて文献講読を行う。発表担当者は発表準備を行う。	4時間
第9回	**米国の集団学習・各論（１）ジョンソン兄弟の協同学習理論** David JohnsonとRoger Johnsonによるcooperative learning理論について理解を図り、その特徴と課題を考察する。	次の授業に向けて文献講読を行う。発表担当者は発表準備を行う。	4時間
第10回	**米国の集団学習・各論（２）スレイヴィンの協同学習理論** Robert Slavinのcooperative learning理論について理解を図るとともに、Johnson兄弟の理論との異同を分析する。	次の授業に向けて文献講読を行う。発表担当者は発表準備を行う。	4時間
第11回	**米国の集団学習・各論（３）ブラフィーの協調学習理論** Kenneth Bruffeeのcollaborative learning理論とそれを支える哲学について理解を図り、その特徴と課題を考察する。	次の授業に向けて文献講読を行う。最終レポートの執筆を進める。	4時間
第12回	**ヴィゴツキー学派の理論（１）最近接発達領域概念を中心に** 最近接発達領域概念をはじめとするLev Vygotskyの理論について理解を図り、それをのちのVygotskianたちがどう展開させてきたのかを考察する。	次の授業に向けて文献講読を行う。最終レポートの執筆を進める。	4時間

第13回	**ヴィゴツキー学派の理論（２）アプロプリエーション概念を中心に** 前時に引き続き、アプロプリエーション概念を中心とするVygotskianの理論や、Jean Laveの正統的周辺参加論の展開について理解を図ることで、それらが現在の集団学習論にどのような影響を与えているかを考察する。	次の授業に向けて文献講読を行う。最終レポートの執筆を進める。	4時間
第14回	**米国の集団学習・各論（４）グループ認知の理論** Gerry Stahlが提唱したグループ認知の理論を手掛かりに、collaborative learningにおけるインタラクションの分析の在り方について考察する。	最終レポートの執筆ならびに発表準備を行う。	4時間
第15回	**まとめ　発表と総括** 協働的な学びとその評価の在り方について各自執筆したレポートを発表してもらい、議論と講評を行うことで、本科目での学びを総括する。	最終レポートの推敲を行う。	4時間

436

授業科目名	学校教育実践演習Ⅰ				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校６年　京都府公立小学校勤務２０年　京都府教育委員会指導主事等勤務7年				

授業概要

小学校、幼稚園におけるフィールドワークにより、言語能力育成に関わる諸課題を軸として保育、授業づくりの検討を行う。ボランティアあるいはインターンシップとして学校教育に参加しつつ、参与観察や関係者へのインタビュー等をとおして、多角的、立体的に課題を探究する。その際、大学院生の協働によるフィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。そのことで課題分析を深化させるとともに、解決へ向けて創造的、組織的に実践できる力を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	言語能力に係る諸理論及び分析の手法を学ぶ	多角的な視点から児童の言語能力育成に係る課題を分析することができる。
2. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答	言語能力育成を柱とした学校改善計画の作成	分析した課題を解決するための取り組みを学校改善計画にまとめることができる。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		多角的な視点から実態を捉え課題を分析することができる。
2. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		課題解決のための過程を明確にし、具体性のある計画を立案できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、放棄とみなし、不可とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	40 %	： 課題に即して分析し、創造的に考察できているかなど、本学共通のルーブリックに即して評価する。
プレゼンテーション	40 %	： 各自の保育・学校改善プランについて、説得力のあるプレゼンテーションが行えているか独自のルーブリックにより評価する。
授業への参加態度	20 %	： フィールドワークへの参加、討論への積極的な参加等について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業の中で、適宜指定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

これからの学校教育実践の在り方を言語能力育成に関わる諸課題を軸としてケースメソッド形式で探求し、フィールドワークを通して、学校教育実践プログラムを開発します。それぞれ課題意識を明確にして、主体的に授業に臨むことを期待します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後

場所： 中央館2階　辻村研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**現代の保育・教育の課題（１）言語能力の育成に関する現状と課題** 言語能力の育成に関して、保育もしくは学校教育の現状と課題を探るための視点として、国語の能力、読解力、表現力などのキーワードについて理解を深める。その上で、自分自身の視点を明確にし、各自が関わっている教育現場における現状と課題について考える。	受講者各自が関わる保育・教育現場における言語能力育成に関する現状と問題点をリストアップする。	4時間
第２回	**現代の保育・教育の課題（２）具体的体験の内省的観察から研究テーマ設定へ** 教育現場での教職経験や実習経験を振り返って、言語能力の育成に関する現状と課題を具体的に記述し、各自の研究テーマの方向を定める。	言語能力育成に関する現状と課題が端的に表れた具体的な場面やエピソードを思い起こしてメモ等を作成する。	4時間
第３回	**研究手法の検討　「ケース・メソッド」の原理と手法** 実践的な課題解決の手法として「ケース・メソッド」の方法を使い、各自が想定したケースについてグループで討論を進め、実践研究の方向を検討する。	各自の実践研究の目的と仮説、おおまなか見通しを記述する。	4時間
第４回	**研究計画の立案（１）仮説の措定と検証過程の検討** 言語能力の育成に係る課題を解決するための「改善案」を仮説として定め、検証のための方法と具体的な過程を検討する。	各自、「改善案」を検証する方法と具体的な過程を実践研究計画案としてまとめる。	4時間
第５回	**研究計画の立案（２）フィールドリサーチとフィールドワーク①（観察的参与）計画の検討** 観察的参与に関する基本的な内容を学び、各自が関わる教育現場をフィールドとして調査、観察等を行う方法を検討し、現状と課題を捉えるための具体的な計画を立案する。	受講者が関係する保育・教育現場でフィールドワークを実施し、その結果を報告する準備をする。	4時間
第６回	**フィールドワーク①の省察（１）体験事象・観察事象の記述と共有化** フィールドワークを通して得た体験、調査、観察の結果をケースとして記述する方法を学び、グループで共有することを通して考察を深める。	グループ交流を通して深めた考察をレポートにまとめる。	4時間
第７回	**フィールドワーク①の省察（２）体験・観察の分析・検討による仮説の検証** フィールドワークで得たケースについて、課題解決のための方策についてグループ、クラスで討論し仮説を立てる。	グループ交流を通して深めた考察をレポートにまとめる。	4時間
第８回	**フィールドワーク②（能動的・実験的参与）計画の立案** フィールドワーク?で得た課題解決の方策を仮説として、それを検証するための能動的・実験的参与の方法を学び、フィールドワーク②の具体的な計画を立てる。	フィールドワークの計画を具体化し、各自が関係する保育・教育現場でフィールドワークを実施する。	4時間
第９回	**フィールドワーク②の省察（１）能動的・実験的参与から得た結果の記述と共有化** フィールドワーク②を通して得た課題解決の方策について、その結果をケースとして記述する方法を学び、グループで共有することを通して考察を深める。	フィールドワークの結果とグループ交流で得た考察をまとめる。	4時間
第10回	**フィールドワーク②の省察（２）能動的・実験的参与から得た結果の分析・検討** フィールドワークで得たケースについて、課題解決のための方策の成果や効果についてグループ、クラスで討論し、考察を深める。	グループ交流で深めた考察をレポートにまとめる。	4時間
第11回	**フィードバックを通した考察･･･フィールドワーク先の教員等へのフィードバックと協議** フィールドワーク先の教員等へフィードバックするために、2回のフィールドワークで得た結果をまとめ、記述する。	保育・教育現場へのフィードバックを行い、その評価と助言をまとめる。	4時間
第12回	**フィールドワークの総括･･･仮説、検証、理論化の過程をストーリーとして記述** これまでの実践研究の過程を仮説→検証→理論化のストーリーとして記述し、グループで交流することで相互に精査し、考察を深める。	実践研究のストーリーをプレゼンテーションする説明スライドを作成する。	4時間
第13回	**学校教育実践の提言（１）　言語力育成に関わる保育・学校改善プランの立案と検討**	保育改善プラン・学校改善プランの説明スライドを作成する。	4時間

	これまでの研究成果を「保育改善プラン」または「学校改善プラン」としてまとめ、グループで交流することでブラッシュアップする。		
第14回	**学校教育実践の提言（２） 言語力育成に関わる保育・学校改善プランのプレゼンテーション** 各自の改善プランをプレゼンテーションし、相互に評価や助言を行うことで、さらにブラッシュアップを図る。	自分のプレゼンテーションを省察し、成果と課題をまとめる。	4時間
第15回	**研究活動全体の省察と今後の研究課題の検討** これまでの授業で学んできた、現状把握、課題分析、問題解決の手法を整理し、そこで得た内容的な学びと方法的な学びについて省察し、現場での実践に、向けての展望を持つ。	本授業で得た学びを整理し、まとめる。	4時間

436

授業科目名	学校教育実践演習Ⅱ				
担当教員名	橋本隆公				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市立小学校教諭9年間・大阪教育大学附属平野小学校教諭9年間・同主幹教諭2年間・同副校長2年間　主に、算数科教育実践研究・総合的学習実践研究・幼小中高特別支援共同研究・保護者参画・学校運営				

授業概要

大学院生と教員による協働研究を通じて、幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発と、保育・授業づくりの検討を行う。その際、大学院生による小学校や幼稚園での「フィールドワーク」と、大学院生の協働によるフィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。そうすることで、幼稚園・小学校現場で中心的な役割を担いながら、創造的なカリキュラム開発と保育・授業づくりを組織的に実践できる力を身につけることができる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答	幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発と、保育・授業づくりのプログラムを検討し、実践を通して省察する。	これからの学校教育実践の在り方をケース・メソッド形式で学び、フィールドワークを通して、学校教育実践プログラムを開発することができる。

汎用的な力	
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発
2. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	小学校や幼稚園での「フィールドワーク」と、大学院生の協働によるフィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。

学外連携学修

有り(連携先：大阪教育大学附属平野小学校など)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
第1回から第6回までの毎回のレポート	30 %	:	幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発
新しい学校教育実践プログラムの案、及び　省察	40 %	:	小学校や幼稚園での「フィールドワーク」
発表・ディスカッション・まとめ	30 %	:	フィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし（適時、配付する）

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日の本授業前後

場所： 橋本研究室

備考・注意事項： 必要に応じて、水曜日以外の17：10以降も対応できます。いずれにしても、メールでアポイントをお願いします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、及び、各学校の特色** これからの学校教育実践のあり方（1）全ての教職員で創り上げる各学校の特色	勤務校園の特色のレポート	4時間
第2回	**各学校のカリキュラム** これからの学校教育実践のあり方（2）カリキュラム・マネジメント	勤務校園のカリキュラムのレポート	4時間
第3回	**異校園種連携** これからの学校教育実践のあり方（3）幼稚園・小学校・中学校との連携	勤務校園の異校園種連携のレポート	4時間
第4回	**保護者・地域との連携** これからの学校教育実践のあり方（4）保護者の参画とコミュニティースクール	勤務校園の保護者・地域連携のレポート	4時間
第5回	**海外比較** これからの学校教育実践のあり方（5）オーストラリアの学校教育実践「プレップ」に学ぶ	海外の教育事例のレポート	4時間
第6回	**アクティブ・ラーニングの推進** これからの学校教育実践のあり方（6）算数科・総合的な学習を例にしたアクティブラーニング	勤務校園のアクティブ・ラーニングのレポート	4時間
第7回	**プログラム開発（1）　計画** 新しい学校教育実践プログラムの開発（1）プランづくり	計画書作成	4時間
第8回	**プログラム開発（2）　検討** 新しい学校教育実践プログラムの開発（2）プランの検討	計画書修正	4時間
第9回	**プログラム開発（3）プランの共有** 新しい学校教育実践プログラムの開発（3）フィールドワーク先とのプランの共有	具体案作成	4時間
第10回	**プログラム開発（4）　実践の実施** 新しい学校教育実践プログラムの開発（4）フィールドワーク先での教育実践	実践記録作成	4時間
第11回	**プログラム開発（5）　実践の省察** 新しい学校教育実践プログラムの開発（5）フィールドワーク先との省察	実践のレポート	4時間
第12回	**プログラムの開発（6）　省察** 新しい学校教育実践プログラムの開発（6）省察	振り返りのレポート	4時間
第13回	**プログラムの改善** 新しい学校教育実践プログラムの開発（7）アクションプランづくり	アクションプラン作成	4時間
第14回	**発表会** 学校教育実践プログラムの研究事例の発表・ディスカッション	フィールドワーク先への報告に関するレポート	4時間
第15回	**総括** フィールドワーク先への研究事例の報告とまとめ ※各自、フィールドワーク先へ、報告を済ませた上で、第15回に取る組む	まとめのレポート	4時間

435

授業科目名	**多文化共生社会特論**				
担当教員名	伊藤莉央				
学年・コース等	1・2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

グローバル化時代における教育のあり方について、国内外の事例や学術領域において構築された理論等を踏まえて考察する。具体的には、国境を越えて移動する人々（＝移民）に焦点を当て、多様な文化的背景をもつ子どもたちを包摂するための教育を構想することを通じて、教育者として多文化共生社会の実現に貢献するための知識・能力を獲得することをめざす。その際、単に日本と外国（海外）という視点だけでなく、アイヌ文化や琉球文化、さらには文字文化などより広い意味での「多文化」を議論し、多文化共生社会に対する広範な視野を獲得することをめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	多文化共生社会に関する応用的知識	教育者・研究者として多文化共生社会の実現に貢献するための応用的な知識・能力を獲得する。
汎用的な力		
1. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答		多文化共生社会の在り方に対する具体的実践を、エビデンスに基づいて批判的に検討し、討論することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として、規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	50 ％	： 授業後半に実施されるプレゼンテーションの発表内容によって評価を行う。
小レポート課題	50 ％	： 毎回授業内容に関わる小レポートの提出求める。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

志水宏吉・清水睦美編『ニューカマーと教育』明石書店、2001年
岡部牧夫『海を渡った日本人』山川出版社、2002年
梶田孝道・丹野清人・樋口直人『顔の見えない定住化』名古屋大学出版会、2005年
馬渕仁編『「多文化共生」は可能か』勁草書房、2011年
塩原良和『共に生きる』弘文堂、2012年
志水宏吉・中島智子・鍛治致編『日本の外国人学校』明石書店、2014年
宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』有斐閣、2015年
異文化間教育学会『異文化間教育学体系（第１巻～第４巻）』明石書店、2016年
額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子編『移民から教育を考える』ナカニシヤ出版、2019年

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり４時間の授業外学修が必要である。

本授業では、受講生の研究関心に応じたテーマ設定・議論設定を優先する。各回の詳細な議論テーマについては、受講生の研究関心に応じて、多少修正することがある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室

備考・注意事項： 授業の前後以外については、下記のアドレスにて質問などを受け付ける。
ito-r@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**多文化共生社会とは** 講義の流れと成績評価について説明したあと、「多文化共生社会」という概念が構築された歴史的文脈や理論的背景を学ぶ。	講義内容を復習し、以降の授業に備える。	4時間
第２回	**日本における「外国人」（１）：ニューカマーの生活世界** ニューカマー外国人の生活世界について、労働環境や移住者コミュニティを中心に学ぶ。	講義の内容を配布資料等を用いて復習し、ニューカマーの生活世界について理解を深める。	4時間
第３回	**日本における「外国人」（２）：オールドカマーの生活世界** オールドカマーの生活世界について、歴史的文脈や現在の生活状況などを中心に学ぶ。	講義内容を配布資料等を用いて復習し、ニューカマーの生活世界について理解を深める。	4時間
第４回	**日本における「外国人」の教育（１）：ニューカマーと教育** ニューカマーの子どもの教育問題について、言語・学力、文化葛藤、アイデンティティ、進路選択といった問題を取り上げながら学ぶ。	講義内容を配布資料等を用いて復習し、ニューカマーの教育問題について理解を深める。	4時間
第５回	**日本における「外国人」の教育（２）：オールドカマーと教育** オールドカマーの教育問題について、在日コリアンをめぐる教育問題を中心に取り上げながら学ぶ。	講義内容を配布資料等を用いて復習し、オールドカマーの教育問題について理解を深める。	4時間
第６回	**日本における外国人学校（１）：ブラジル人学校、コリア系学校** 日本における外国人学校について、ブラジル人学校とコリア系学校を取り上げ、その実態と教育課題について理解を深める。	講義内容を配布資料等を用いて復習し、日本における外国人学校について理解を深める。	4時間
第７回	**日本における外国人学校（２）：中華学校、インターナショナル・スクール** 日本における外国人学校について、中華学校とインターナショナル・スクールを取り上げ、その実態と教育課題について理解を深める。	講義内容を配布資料等を用いて復習し、日本における外国人学校について理解を深める。	4時間
第８回	**海外における「日本人」（１）：日系移民** 戦前・戦中の日本人の海外移住について、日系移民の歴史と現代の動向を中心に学ぶ。	講義内容を配布資料等を用いて復習し、日系移民について理解を深める。	4時間
第９回	**海外における「日本人」（２）：国際結婚** 戦後の日本人の海外移住について、国際結婚に着目しながら学ぶ。	戦後の日本人の海外移住について、国際結婚に着目しながら学ぶ。	4時間
第１０回	**学校教育のなかの多文化共生：民族学級の取り組み** 日本の公立学校における「民族学級」の取り組みの歴史、反差別に関する教育実践の歴史を学び、今後の多文化共生社会との接続に着目しながら学ぶ。	義内容を配布資料等を用いて復習し、民族学級実践について理解を深める。	4時間
第１１回	**地域で取り組む多文化共生の教育** 移民の背景をもつ様々な子どもの教育について、地域（学校外）で取り組まれている学習支援や言語教室の現状と課題を学ぶことを通じて理解を深める。その際日本だけでなく、オーストラリア、カナダ、イギリスなど多文化主義国家の事例と比較検討する。	講義内容を配布資料等を用いて復習し、地域活動の可能性について理解を深める。	4時間
第１２回	**プレゼンテーション (1)** これまでの授業内容を踏まえた上で、多文化共生社会に関わる関心のある内容についての探求発表を行う。 発表した後に質疑応答を行うことにより、議論をし多文化共生社会の理解を深める。	各発表についての感想をまとめておく。	4時間
第１３回	**プレゼンテーション (2)** これまでの授業内容を踏まえた上で、多文化共生社会に関わる関心のある内容についての探求発表を行う。 発表した後に質疑応答を行うことにより、議論をし多文化共生社会の理解を深める。	各発表についての感想をまとめておく。	4時間
第１４回	**トランスナショナリズムという考え方** トランスナショナリズムという考え方の歴史的・理論的背景を学び、国境を越えて移動する人々の生活世界を理解するための視座を身につける。	講義内容を配布資料等を用いて復習し、トランスナショナリズムについて理解を深める。	4時間
第１５回	**多文化共生社会の構築にむけて**	講義内容を配布資料等を用いて振り返り、自分なりの「多文化共生社会」を構想する。	4時間

本講義を振り返り、多文化共生社会の実現に向けて何ができるのかを考える。		

436

授業科目名	**対人援助特論**				
担当教員名	岩崎久志				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	1997年以降、高等学校をはじめとした教育現場においてスクールカウンセラーとして実践を重ねてきている。				

授業概要

今日、教育をめぐる問題は複雑多様化してきている。不登校、いじめ、貧困、虐待など、学校は子どもが抱える様々な課題に直面している。そのような状況にあって、すべての問題に教員のみで対応するのはもはや困難である。本授業では、より広い見地から教育実践の省察を通して問題解決を模索していく。実践的な学びとして、スクールカウンセリングやスクールソーシャルワークなどを活用した「チーム学校」を念頭に置き、さらにコミュニティにおける多様な対人援助の協働による支援のあり方を検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	教育コミュニティモデルの構築について理解を深めていくとともに、学校と家庭および地域の相談機関などが協働して教育実践を行うための課題と展望について検討する。	「チーム学校」を念頭に置き、コミュニティにおける多様な対人援助の支援のあり方について理解し、援助実践に積極的に関与、協働できるための知識を身につける。

汎用的な力	
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	教育現場や地域が抱える問題を発見するアセスメントの能力を身につけ、具体的に取り組むべき課題として提示できるための力を修得する。
2. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答	広い意味での対人援助に携わる者として、必要最低限の傾聴能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業における積極的な参画、ディスカッション、発表	40 %	： 授業への積極的な姿勢や習熟度を評価します。
期末レポート試験	60 %	： 試験期間内のレポート試験において習熟度を確認・評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岩崎久志	・ 対人援助に活かすカウンセリング	・ 晃洋書房	・ 2020 年

参考文献等

岩崎久志『ストレスとともに働く - 事例から考えるこころの健康づくり - 』晃洋書房、2017年

岩崎久志『学び直しの現象学 - 大学院修了者への聞き取りを通して - 』晃洋書房、2020年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： メールアドレスを開示するので、活用願いたい。Hisashi_Iwasaki@red.umds.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**対人援助の概念** 対人援助の概要と現状について学ぶ。	自身のフィールドと関わりのある対人援助の領域について調べる。	4時間
第2回	**学校教育と対人援助の関係** 学校教育、特に学校現場と関わる対人援助および専門職について学ぶ。	「チーム学校」を視野に入れて、学校現場にどのような対人援助職が支援に関わっているのか調べる。	4時間
第3回	**今日の学校をめぐる問題（1）不登校、いじめ、暴力行為** 学校をめぐる問題行動の諸相と現状について学ぶ。	学校をめぐる問題行動の諸相と現状(データ)について調べる。	4時間
第4回	**今日の学校をめぐる問題（2）貧困、虐待など、家庭の養育機能の低下** 学校をめぐる問題行動の諸相と現状について学ぶ。特に、子どもを取り巻く環境要因を理解する。	福祉的な視点も視野に入れて、学校をめぐる問題行動の諸相と現状(データ)について調べる。	4時間
第5回	**今日の学校をめぐる問題（3）教師の多忙化、メンタルヘルス不調など** 今日の「働き方改革」の議論を念頭に置いて、教師の多忙化、メンタルヘルス不調について学ぶ。	教師の多忙化、メンタルヘルス不調など、教師の労働環境について調べる。	4時間
第6回	**「チーム学校」における学際性の重要性～生徒指導、教育相談を視野に～** 「チーム学校」の概要を踏まえて、そこにおける学際的な連携協働の重要性について学ぶ。	いわゆる「チーム学校」の概念と現状について調べる。	4時間
第7回	**臨床教育学における学際性の概念について** 臨床教育学の概要(ディシプリン)と学際性の重要性について学ぶ。	臨床教育学とはどのような学問か、調べておく。	4時間
第8回	**「チーム学校」と対人援助（1）スクールカウンセリング** スクールカウンセリングの概要、現状と課題について学ぶ。	スクールカウンセリングの概要について調べる。	4時間
第9回	**「チーム学校」と対人援助（2）スクールソーシャルワーク** スクールソーシャルワークの概要、現状と課題について学ぶ。	スクールソーシャルワークの概要について調べる。	4時間
第10回	**「チーム学校」と対人援助（3）特別支援教育等の実践** 特別支援教育等の概要、現状と課題について学ぶ。	特別支援教育の概要について調べる。	4時間
第11回	**教育コミュニティにおける学校・家庭・地域の連携のあり方** 有効な教育コミュニティの実現に向けた、学校・家庭・地域の連携のあり方について学ぶ。	学校・家庭・地域の連携の現状と課題について調べる。	4時間
第12回	**地域における社会資源の活用（1）専門相談機関、専門職** 地域における社会資源、特に専門相談機関および専門職の活用方法について学ぶ。	地域の社会資源にはどのようなものがあるか、特に専門相談機関および専門職について調べる。	4時間
第13回	**地域における社会資源の活用（2）インフォーマルな資源** 地域における社会資源、中でもインフォーマルなものの活用方法について学ぶ。	地域の社会資源にはどのようなものがあるか、インフォーマルなものについて調べる。	4時間
第14回	**まとめ～実効性のある「チーム学校」の実現に向けて～** 実効性のある「チーム学校」の実現に向けて、対人援助のあり方について学ぶ。	実効性のある「チーム学校」とはどのようなものか、それぞれが思い描くあり方をまとめる。	4時間

授業科目名	**家庭支援特論**				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	1･2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	家庭裁判所調査官として心理学、社会福祉学、教育学などの専門的な知識や技法を活用し、家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた「調査」や「調整」を担当。（全15回）				

授業概要

家族の構造、形態、機能について諸理論について理解した上で、今日の子育て家庭に焦点をあて、家庭支援の意義と役割についての認識を深めていくことを目的とする。具体的には、家族の今日的な課題を明らかにした上で、特に家庭の教育的機能に焦点をあて、家族内コミュニケーションのあり方について理解を深めていく。さらに、家庭教育支援を実施していくにあたって、システムズ・アプローチの認識論に立って家族の問題をとらえる意義、さらには社会構成主義の考え方を踏まえた具体的な支援の方法論について考究していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	家族をめぐる諸理論、家族の今日的課題、家庭支援の方法論	家族に関する諸理論を踏まえ、家族に対する具体的な支援のあり方を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		家族に関する諸理論を踏まえ、家族に対する具体的な支援に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業におけるテーマ別発表とディスカッション	60 %	： 事前学修の準備内容を踏まえた発表・討論への参加を総合的に評価する。
レポート	40 %	： 授業で理解した内容と自らの実践とを関連づけて、家族援助の理論をとりあげ、具体的実践のあり方についての考察を総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

広田照幸編『＜理想の家族＞はどこにあるのか？（＜きょういく＞のエポケー第１巻）』教育開発研究所、2002年 ISBN:978-4873808239
日本家族研究・家族療法学会編『家族療法テキストブック』金剛出版、2013年　ISBN:978-4772413176

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり４時間の授業外学修が必要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業日の17時から18時まで

場所：　中央館２階個人研究室72

備考・注意事項：　備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。

メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「家庭支援特論：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**家族と社会とのかかわり** 社会システムの中での家族の位置づけ、現代の家族が当面する諸課題を概括します。	授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第2回	**家族の歴史的変遷** 日本における家族の歴史的変遷を取り上げ、家族というものの変化をとらえていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第3回	**家族の定義と家族に関連する制度** 「家族とは何か」ということついて、家族に関連する制度と照らし合わせながら、その概念をとらえていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第4回	**家族の機能と心理構造** 家族にはどのような機能があるのか、家族成員、さらには家族成員相互の関係性といった点に着目して、その心理構造について考えていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第5回	**家族の発達段階** 家族には様々な発達段階があり、それぞれにある発達課題をとらえていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第6回	**人の一生と家族の危機** 家族のライフコースという考え方を示した上で、家族の危機に関する理論を学びます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第7回	**子どもの養育と社会化** 家族の機能の一つである子どもの養育と社会化という点に焦点をあて、家族の今日的課題について考えていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第8回	**家庭教育の現状と家庭を取り巻く課題** 家庭教育という点に焦点をあてて、家庭を取り巻く今日的課題について考えていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第9回	**家族内コミュニケーション** 家族内コミュニケーションに焦点をあてて、家族の関係性をとらえていく理論を学びます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第10回	**家族アセスメントの理論と技法** 家族アセスメントについて、その基本的な考え方を学んだ上で、具体的なアセスメント技法について学びます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第11回	**家庭支援の理論(1) システムズ・アプローチ** システムズ・アプローチの認識論に立って家族の問題をとらえる意義を踏まえた上で、家族支援のあり方を学びます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第12回	**家庭支援の理論(2) 社会構成主義とナラティブ・セラピー** 会構成主義の考え方を踏まえた具体的な支援の方法論について学びます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第13回	**家族療法の実際** 家族療法の理論と実践について具体的な事例を通して学びます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間

第14回	**地域の教育力を活かした家庭教育支援の在り方** 家庭教育を支援していくための理論と方法論を学びます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
第15回	**家庭支援の今後の方向性** 家庭支援の意義と役割についての学びを踏まえ、今後の家庭支援の方向性と課題を考えていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間

436

授業科目名	**地域教育実践演習Ⅰ**				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

地域には学校以外にも教育を支える様々な組織や人々が活動している。例えば、学校にいけない子供たちの居場所を提供するフリースクールの活動、地域の歴史や文化を教える活動、諸外国の人々との交流を図る活動などである。これらの活動を支えているのは、（広い意味での）ボランティアや非営利組織（NPO）であることが多い。本科目では、地域における学校以外の教育組織に着目し、実際にこれらの組織でフィールドワークを行いながら、地域教育にかかわる組織の活動とその意義について検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	文献・研究論文を通じて、教育に関する知見を検討する。	地域教育に関する学術的理論を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.客観的・論理的考察の展開による独創的・有用な研究の遂行		先行知見を理解したうえで、独自性を持つ研究課題を設定することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業で扱った地域教育にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示すことができる点、および、地域教育組織を調査検討する方法論的知識と技術を身に着けている点を評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験	70 %	:
授業で示す課題	30 %	:

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、授業内で参考となる資料を紹介・配付する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業でお知らせします。

場所： 中央館5階研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間

第１回	**地域教育論の考え方** 地域教育の歴史と現状について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第２回	**学校・家庭・地域の協働** 学校、家庭、地域（行政やNPOなど）が連携して教育を担うあり方について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第３回	**地域教育と市民社会** シチズンシップの考え方とそこでの地域の役割について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第４回	**研究方法論基礎：参与観察法とインタビュー法** 参与観察とインタビューの方法について基礎的事項を学ぶ。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第５回	**事前学習（不登校児童生徒支援）** 不登校の現状とその支援について学ぶ。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第６回	**フィールドワーク（不登校児童生徒支援）①活動の概要把握** NPOでのフィールドワークを通じて活動概要とミッションを学ぶ。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第７回	**フィールドワーク（不登校児童生徒支援）②活動への参加** NPOにおいて参与観察を実施する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第８回	**フィールドワーク（不登校児童生徒支援）③活動への主体的かかわり** NPOの活動に主体的にかかわり、その意義について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第９回	**中間指導：これまでの活動の振り返りと今後の課題の明確化** 前半のフィールドワークから得た知見を整理し、後半のフィールドワークで注目する点を明確にする。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１０回	**事前学習（防災・まちづくり教育）** 防災・まちづくり教育の現状と課題について学ぶ。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１１回	**フィールドワーク（防災・まちづくり教育）①活動の概要把握** NPOでのフィールドワークを通じて活動概要とミッションを学ぶ。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１２回	**フィールドワーク（防災・まちづくり教育）②活動への参加** NPOにおいて参与観察を実施する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１３回	**フィールドワーク（防災・まちづくり教育）③活動への主体的かかわり** NPOの活動に主体的にかかわり、その意義について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１４回	**地域教育の実際** これまでのフィールドワークから地域教育の現状と課題について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１５回	**成果報告会** これまでのフィールドワークで得られた知見を報告する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間

436

授業科目名	**地域教育実践演習Ⅱ**				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「地域教育実践演習Ⅰ」において、フィールドワークを通じて、学校以外の地域教育組織について身に着けた知見をさらに展化・深化させることを目的とする。つまり、地域において、学校とは異なる目的や方法によって活動する教育組織の意義を理解した上で、地域にとってより効果的な学校と地域組織との協働のあり方を模索する。フィールドワークを通じて地域教育の活動に関わりながら、学校を含めた多様な教育機関の協働が、地域教育にもたらす可能性と課題を検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	文献・研究論文を通じて、教育に関する知見を検討する。	地域教育に関する学術的理論を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.客観的・論理的考察の展開による独創的・有用な研究の遂行		先行知見を理解したうえで、独自性を持つ研究課題を設定することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業で扱った地域教育にかかわる教育テーマについて正しく理解するとともに、地域教育組織において適切なフィールドワークを実施し、フィールドワークから地域教育組織の現状と課題を発見し、地域教育について自らの見解を説得的に示すことができる点を評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験	50 %	:
成果報告	50 %	:

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、授業内で参考となる資料を紹介・配付する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業でお知らせします。

場所： 中央館5階研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間

第１回	**地域教育論の整理** 地域教育に関する理論を整理する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第２回	**コミュニティの再生と学校改革①：考え方の整理** 今日の教育改革が教育コミュニティにもたらす影響について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第３回	**コミュニティの再生と学校改革②：事例の検討** 教育コミュニティの活動事例について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第４回	**研究方法論基礎：質問紙法と統計処理** 質問紙法と統計処理について基礎的事項を学ぶ。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第５回	**事前学習（多文化教育）** 多文化教育の現状とその取組みについて学ぶ。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第６回	**フィールドワーク（多文化教育）①活動の概要把握** NPOでのフィールドワークを通じて活動概要とミッションを学ぶ。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第７回	**フィールドワーク（多文化教育）②活動への参加** NPOにおいて参与観察を実施する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第８回	**フィールドワーク（多文化教育）③活動への主体的かかわり** NPOの活動に主体的にかかわり、その意義について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第９回	**中間指導：これまでの活動の振り返りと今後の課題の明確化** 前半のフィールドワークから得た知見を整理し、後半のフィールドワークで注目する点を明確にする。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１０回	**事前学習（特別支援）** 特別支援教育の現状とその取組みについて学ぶ。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１１回	**フィールドワーク（特別支援）①活動の概要把握** NPOでのフィールドワークを通じて活動概要とミッションを学ぶ。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１２回	**フィールドワーク（特別支援）②活動への参加** NPOにおいて参与観察を実施する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１３回	**フィールドワーク（特別支援）③活動への主体的かかわり** NPOの活動に主体的にかかわり、その意義について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１４回	**地域教育の意義と課題** これまでのフィールドワークから地域教育の現状と今後の展開について検討する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間
第１５回	**成果報告** これまでのフィールドワークで得られた知見を報告する。	授業内容について要点を整理し、次回授業のキーワードについて概要を整理してください。	4時間

435

授業科目名	教育組織開発特論【2024年度開講せず】				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	1･2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育にかかわる集団や組織を社会関係資本や組織論の観点から検討し、教育効果を生みだす組織開発について考察する。具体的には学級集団、教職員集団、地域社会に着目し、友人関係、教師と生徒の関係、校長のリーダーシップ、家族・保護者との協働などを取り上げる。ただ、特定の条件を満たせば、必ず教育効果が上がるというものではないことも事例を通じて示し、教育組織の開発には、個々の条件や環境を考慮した多様な取り組みが必要であることを検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	文献・研究論文を通じて、教育に関する知見を検討する。	教育組織開発に関する学術的理論を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.客観的・論理的考察の展開による独創的・有用な研究の遂行		先行知見を理解したうえで、独自性を持つ研究課題を設定することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験	70 %	： 授業で扱った教育組織開発にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示すことができる点を評価する。
授業内に示す課題	30 %	： 授業で扱った教育組織開発にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示すことができる点を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜提示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業でお知らせします。

場所： 中央館5階階研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間

第１回	**教育組織開発とは** 教育組織開発の現状と課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育組織開発について理解を深める。	4時間
第２回	**若者の友人関係分析** 今日の若者の友人関係や文化の特徴について考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第３回	**特別支援の動向** 特別支援教育の歴史と現状、課題について考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第４回	**教師と生徒のコミュニケーション** 教師と生徒の関係の特徴とその困難について考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第５回	**授業におけるコミュニケーション** 授業での学び合いについて考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第６回	**教師の権威が持つ影響** 教師が不可避に権威性を帯びていることと、その子どもへの影響について考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第７回	**教師の成長とキャリア** 教師の成長と専門性について考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第８回	**教師のストレス** 教師の多忙やバーンアウトについて考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第９回	**学校の組織論** 学校を組織論や経営論の観点から考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第１０回	**校長のリーダーシップ** 学校における校長の役割と課題について考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第１１回	**ミドルリーダーの役割** 学校におけるミドルリーダーの重要性につて考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第１２回	**教職員の評価** 教職員評価の特徴とその困難について考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第１３回	**専門組織と学校との連携** 地域の専門組織と学校が連携することの難しさと大切さについて考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第１４回	**家族・保護者との連携** 家族・保護者と学校がどのような連携ができるのかを考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間
第１５回	**地域社会とのネットワーキング** 地域で子どもを教育する際のネットワーキングのあり方ついて考えます。	授業内容について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べ、概要を理解してください。	4時間

436

授業科目名	コミュニティ・スクール特論				
担当教員名	西 孝一郎				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	コミュニティ・スクールで教頭・校長を経験。教育委員会でコミュニティ・スクールの実施を支援。文部科学省コミュニティ・スクール推進員（CSマイスター）				

授業概要

まず、コミュニティ・スクールの概要を知り、コミュニティ・スクールの目的と活動を理解できるようにする。次に、テキストを使って、今後の研究目的や研究方法を理解する。3番目に、テキストを輪読し、コミュニティ・スクールの制度や学校運営協議会の活動について、グループワーク等を通して理解できるようにする。さらに、コミュニティ・スクールの実地研修を行い、コミュニティ・スクールについての自分の考えをまとめることができるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	学校・家庭・地域が連携して課題を解決していく意義と方法について理解する。	コミュニティ・スクールの概要を理解する。
2. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	コミュニティ・スクールが設置されてきた経緯・成果・課題を研究する。	コミュニティ・スクールの成果と課題をまとめることができる。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		テキストの読解を通して、地域を扱う研究の方法を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
学校参観レポート	30 %	： コミュニティ・スクール運営の視点に沿って、自分なりにまとめることができている。
最終レポート（定期試験）	50 %	： 講義をもとに、「未来の学校づくり」を、自分なりにまとめることができている。
ワークショップへの参加度（担当部分の発表）	20 %	： 担当部分の発表準備を適切に行い、発表することができている。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
貝ノ瀬滋、鈴木寛	・『みんなで創ろう　コミュニティ・スクール』	・ 悠光堂	・ 2023　年

参考文献等

「コミュニティ・スクールのつくり方」（2020,文部科学省）
「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究　実施報告書　第Ⅱ部」（2021,三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社）
「令和5年度　コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況について」（2023,文部科学省）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各授業終了後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： メールでの質問、意見も可
nishi-k@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　コミュニティ・スクールについての認識を交流** まず、本授業の計画を知り、見通しをもつ。本授業では、「みんなで創ろうコミュニティ・スクール」のテキストを使用し、コミュニティ・スクールについての理解を深めるとともに、研究の方法を学ぶことも目的とする。本授業で扱うコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、設置が努力義務とされており、現在全国の約５割の学校がすでにコミュニティ・スクールになっている。このような現状も含めて、本授業に対する見通しをもてるようにしたい。 次に、コミュニティ・スクールについて知っていることを交流する。コミュニティ・スクールについては、すでに取り組んだ経験をもつ受講生ともたない受講生の間で、認識の差が大きい。そこで、コミュニティ・スクールという言葉から受けるイメージを交流するにとどめる。この交流を通して、「コミュニティ」に対する捉え方を、ある程度そろえておきたい。	１．コミュニティ・スクールに関する経験が話せるようにまとめておく。２．コミュニティ・スクールのパンフレット（文部科学省）を見つけ、読んでおく。	4時間
第2回	**コミュニティ・スクールの導入（目的と組織）** まず、コミュニティ・スクールの目的や組織作りについての説明を受ける。ここでは、コミュニティ・スクールの目的や組織作りを理解し、これからの学修の方向を定めることができるようにする。 また、コミュニティ・スクールにおける「承認」の意味を正しく理解し、法的根拠に基づくコミュニティ・スクールであることがわかるようにする。 ここでは、今後の授業の中で取り上げる課題を明確にし、主体的にコミュニティ・スクールの問題に向き合い、多面的な理解ができるようにしていく。	１．『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（悠光堂）の「はじめに」の部分を読み、コミュニティ・スクールに関する疑問をまとめておく。２．自分の住んでいる地域のコミュニティ・スクール導入状況を調べる。	4時間
第3回	**コミュニティ・スクールの運営と成果** まず、コミュニティ・スクールの運営について、基礎的な事項の説明を受ける。ここでは、学校運営協議会が主体的に運営されるために必要なことを確認する。 次に、コミュニティ・スクールの導入によって得られる成果の一部を知り、今後の学修に対して、見通しを持てるようにする。	１．『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（悠光堂）の「はじめに」の部分を読み、コミュニティ・スクールに関する疑問をまとめておく。２．自分の住んでいる地域のコミュニティ・スクール導入状況を調べる。	4時間
第4回	**コミュニティ・スクールの論点整理** テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（第１部　コミュニティ・スクールの論点整理）を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの目的を理解する。 まず、コミュニティ・スクールが生まれてきた経緯を理解する。 次に、地域学校協働活動について理解する。	１．『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（悠光堂）（第１部　論点整理）を読み、自分なりにレジュメにまとめる。２．テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間
	テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（第１部　コミュニティ・スクールの論点整理）を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの目的を理解する。 まず、コミュニティ・スクールの三段活用によって地域力が生まれることを理解する。 次に、これから、学校が地域に何ができるのかを考える。		
第6回	**コミュニティ・スクールのつくり方**	１．『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（悠光堂）（第２部　コミュニティ・スクールのつくり方）を読み、自分なりにレジュメにまとめる。２．テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間

	テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（第２部　コミュニティ・スクールのつくり方）を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクール設置の手順を理解する。 まず、コミュニティ・スクール設置のために教育委員会が果たす役割を理解する。 次に、コミュニティ・スクール導入の目的を考える。		
	テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（第２部　コミュニティ・スクールのつくり方）を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクール設置の手順を理解する。 まず、コミュニティ・スクール導入のための手順と段取りを理解する。 次に、コミュニティ・スクール設置によって変わってきたことについて考える。		
第8回	**コミュニティ・スクールをめぐるＱ＆Ａ** テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（第３部　コミュニティ・スクールをめぐるQ&A）を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールに関する疑問を整理する。 最初に、学校評議員との違いについて考える。2番目に、従来の学校との違いを考える。3番目に、イギリス型のコミュニティ・スクールについて知る。4番目に、高等学校におけるコミュニティ・スクールについて考える。5番目に、学校運営協議会と学校理事会の違いについて考える。6番目に、働き方改革とコミュニティ・スクールの関係について考える。7番目に、社会に開かれた教育課程とコミュニティ・スクールの関係について考える。	１．『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（悠光堂）（第３部　コミュニティ・スクールをめぐるQ&A）を読み、自分なりにレジュメにまとめる。２．テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間
	テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（第３部　コミュニティ・スクールをめぐるQ&A）を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールに関する疑問を整理する。 最初に、コミュニティ・スクールとＰＴＡとの関係について考える。2番目に、スクール・コミュニティという考え方について考える。3番目に、部活動の地域移行という考えの中でコミュニティ・スクールが果たす役割について考える。4番目に、熟議について考える。最後に、コラムを読んで考えたことを発表する。		
第10回	**コミュニティ・スクールの基本的な考え方** テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（第４部　コミュニティ・スクールの基本的な考え方）を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの基本的な考え方を理解する。 まず、コミュニティ・スクールの法的根拠について考える。次に、学校運営協議会と関係機関の関係について考える。さらに、コラムを読んで考えたことを発表する。	１．『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（悠光堂）（第４部　コミュニティ・スクールの基本的な考え方）を読み、自分なりにレジュメにまとめる。２．テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間
第11回	**コミュニティ・スクールの実際** テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（第５部　コミュニティ・スクールの実際）を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの実際を理解する。 まず、コミュニティ・スクールのさまざまな実施形態について知る。次に、イギリスの学校理事会について知る。さらに、スウェーデンやイタリアでの取組と日本のコミュニティ・スクールの比較から考える。	１．『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（悠光堂）（第５部　コミュニティ・スクールの実際）を読み、自分なりにレジュメにまとめる。２．テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間
第12回	**学校運営協議会の実践に学ぶ（実地研修）** 学校運営協議会の実際を見ることにより、これまで学んできたコミュニティ・スクールの理論と実践をつなげていく。 まず、大阪府内のコミュニティ・スクールを参観し、学校運営協議会に参加することにより、学校運営協議会の具体的なイメージをもつ。 次に、学校運営協議会委員の方と直接話すことにより、地域の方の願いがどのようなものなのかを理解する。	１．学校運営協議会の具体的な姿について、自分なりのイメージをまとめておく。	4時間
第13回	**地域の方の願いと取組を知る（実地研修）** 実施研修で行く学校で、学校運営協議会にかかわっておられる方（文科省CSマイスター）の話を聞き、地域の人の立場からコミュニティ・スクールの取組を理解できるようにする。 まず、CSマイスターから、コミュニティ・スクールについての話を聞き、これまでの学修と結び付ける。 次に、自分の考えるコミュニティ・スクールの姿を交流し、これからのコミュニティ・スクールの在り方を考える。	１．学校運営協議会の具体的な姿について、自分なりのイメージをまとめておく。	4時間
第14回	**実地研修のまとめ** 実地研修のまとめを行い、これまでの学修と結びつけて、コミュニティ・スクールの意義について考える。 まず、各自のレポートをもとに、実地研修で気付いたことを出し合う。次に、出し合ったことから論点を整理し、コミュニティ・スクールの意義について考える。	１．実地研修の振り返りレポートを作成する。	4時間
第15回	**まとめ　「新しい（学校）教育の扉の鍵はコミュニティ・スクール** 	レポート「わたしの考えるコミュニティ・スクール」をまとめる。	4時間

テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』（第６部　新しい（学校）教育の扉の鍵はコミュニティ・スクール）を読み、まとめの発表を聞くことにより、今後のコミュニティ・スクールについて考える。 これまでの学修、実地研修をまとめ、自分なりの考えをもつ。		
		4時間

436

授業科目名	シチズンシップ教育特論				
担当教員名	小原淳一				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪府立支援学校5年、大阪府立高等学校8年の勤務経験。				

授業概要

シチズンシップ（市民性）とは、民主主義社会の構成員として自立した思考と判断を行い、政治や社会の意思決定や問題解決に能動的に参加する資質を指す概念である。そうした社会創造の価値・知識・技能を涵養する教育が、シチズンシップ教育である。近年の人口変動やグローバル化、社会的排除の広がりなどの急速な社会変容の影響から、求められるシチズンシップ教育も変化している。事例検討と授業でのディスカッションを通じてシチズンシップ教育への理解を深め、自らの興味関心と関係づけることができるように足場を構築していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	シチズンシップ教育に関する理論	(1)シチズンシップ教育の基盤となっている各種理論を理解する。 (2)現在展開されているシチズンシップ教育への批判を理解する。
2. DP３.批判的検討に基づく自己の考え方の表出と他者を尊重した討議・応答	シチズンシップ教育に関する実践	(3)国内外のシチズンシップ教育の事例を通じて、実践の方向性を見い出す。 (4)シティズンシップ教育への深い理解に基づき、自らの現場での教育活動を構想できるようになる。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		(5)批判的知性に基づいて、既存の実践の課題を見出せるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内発表及びミニレポートの内容	60 %	： 到達目標(1)(2)(3)に対応して、理解の網羅性と明瞭性を評価する。
授業内発表及び期末レポートの内容	40 %	： 到達目標(4)(5)に対応して、具体性と理論との接続性を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
唐木清志・岡田泰孝・杉浦真理・川中大輔監修	・『シティズンシップ教育で創る学校の未来』	・ 東洋館出版社	・ 2015 年

参考文献等

長沼豊・大久保正弘編『社会を変える教育』キーステージ21、2012年
バーナード・クリック『シティズンシップ教育論』法政大学出版局、2011年
木前利秋他編著『変容するシティズンシップ―教会をめぐる政治―』白澤社、2011年
小玉重夫『教育政治学を拓く』勁草書房、2016年
岡野八代『シティズンシップの政治学［増補版］』白澤社、2009年
ガート・ビースタ『民主主義を学習する』勁草書房、2014年
ガート・ビースタ『よい教育とはなにか: 倫理・政治・民主主義』白澤社、2016年
神代建彦編『民主主義の育て方―現代の理論としての戦後教育学―』かもがわ出版、2021年
若槻健『未来を切り拓く市民性教育』関西大学出版部、2014年
杉本厚夫・高乗秀明・水山光春『教育の3C時代』世界思想者、2008年
嶺井明子編『世界のシティズンシップ教育』東信堂、2007年
北山夕華『英国のシティズンシップ教育』早稲田大学出版会、2014年
杉浦真理『シティズンシップ教育のすすめ』法律文化社、2013年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後の直接対話、もしくは電子メール

場所：　授業教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**コースオリエンテーション：子供・若者が社会参加するとは、どういうことか？** シチズンシップ教育の定義は様々あり、定まったものはない。ただあえて目標を示すと，社会参加の推進であるといえる。	「シチズンシップ教育」や「市民性教育」、「主権者教育」に関わり、自身の気になるキーワードを15程度あげ、それらを用いて、3つの問いを作ること。またそれについて、自身の意見をまとめてくること。	4時間
第2回	**シチズンシップ教育とは何か？（1）「教育」の目的・目標から考える** 本講義では，まずシチズンシップ論の変遷を概観した上で，現代的なシティズンシップ教育論の確認を行う。。次に，「公的な教育」の中でシチズンシップ教育をどのように位置づけることが適当であると考えるかを検討する。その上で，学習者からの課題発表と全体討議を進めながら，シティズンシップ教育の輪郭を捉えていく。	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
第3回	**シチズンシップ教育の実践事例（1）市民の社会的関与／政治的関与に向けた学びについて** ノンフォーマル教育の実践事例検討からシチズンシップ教育の実際と，子供・若者の多様な社会参加について理解を深めていく。その上で，学習者からの課題発表と全体討議を進めながら，その要諦や課題について考察を深めていくこととする。	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
第4回	**シチズンシップ教育の実践事例（2）日本における先進的取り組み** フォーマル教育における体系的な実践事例検討から，小学校・中学校・高等学校の各校種でのシチズンシップ教育の展開について理解を深めていく。その上で，学習者からの課題発表と全体討議を進めながら，その要諦や課題について考察を深めていくこととする。	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
第5回	**シチズンシップ教育の実践事例（3）教科教育での実践から（社会科、算数科、体育科、家庭科）** 先行事例を手掛かりとして各教科でのシチズンシップ教育の実践について理解を深めていく。その上で，学習者からの課題発表と全体討議を進めながら，そのキー概念や他の具体的方法について考察を深めていくこととする。	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
第6回	**シチズンシップ教育の実践事例（4）教科教育等での実践から（道徳、総合的な学習、特別活動、学校設定科目）** 先行事例を手掛かりとして各教科でのシチズンシップ教育の実践について理解を深めていく。その上で，学習者からの課題発表と全体討議を進めながら，そのキー概念や他の具体的方法について考察を深めていくこととする。	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
第7回	**シチズンシップ教育の実践事例（5）隣接領域での実践から（多文化教育、人権教育、開発教育、ESD）**	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間

	先行事例を手掛かりとして各教科でのシチズンシップ教育の実践について理解を深めていく。その上で，学習者からの課題発表と全体討議を進めながら，そのキー概念や他の具体的方法について考察を深めていくこととする。		
第8回	**シチズンシップ教育の実践事例（６）隣接領域での実践から（防災、ボランティア、消費者、キャリア教育）** 先行事例を手掛かりとして各教科でのシチズンシップ教育の実践について理解を深めていく。その上で，学習者からの課題発表と全体討議を進めながら，そのキー概念や他の具体的方法について考察を深めていくこととする。	次回授業内容に関連する指定文献を読み、担当者はレジュメを作成する。そして、レジュメ作成者、また各自は気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
第9回	**シチズンシップ教育の実践事例（７）隣接領域での実践から（法教育、模擬選挙、マニフェスト学習）** 先行事例を手掛かりとして各教科でのシチズンシップ教育の実践について理解を深めていく。その上で，学習者からの課題発表と全体討議を進めながら，そのキー概念や他の具体的方法について考察を深めていくこととする。	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
第10回	**シチズンシップ教育とは何か？（２）「シチズンシップ」の歴史から考える** シチズンシップ教育に関する批判的検討を行うため，本講義ではシチズンシップ概念の歴史的変遷に着目する。シチズンシップとそのもととなるコミュニティとの関係を歴史的に追うことによって、そこで必要とされるシチズンシップ教育も変化していく。このような視座から学習者の課題発表と全体討議で考察していく。	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
第11回	**シチズンシップ教育とは何か（３）（世界的動向から必要性を考える）** シチズンシップ教育に関する批判的検討を行うため，本講義ではシチズンシップ概念の持つ排除性に着目する。グローバリゼーションが進展する中，近代国民国家を前提とするシティズンシップ教育には，いくつかの重要な課題が生じている。「移動する人々」が包摂されるシチズンシップ教育の実践について，学習者の課題発表と全体討議で考察していく。	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
第12回	**シチズンシップ教育とは何か（４）（日本での歴史から考える）** シチズンシップ教育に関する批判的検討を行うため，本講義では日本のシチズンシップ教育の歴史的変遷やその背景を概観する。また日本ののでのシチズンシップ教育を「子どもの権利」の側面から学習者の課題発表と全体討議で考察していく。	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
第13回	**シチズンシップ教育とは何か（５）（「シチズンシップ」を批判的にとらえなおす）** シチズンシップ教育に関する批判的検討を行うため，本講義では普遍的な人権としての「シチズンシップ」とコミュニティから賦与される「シティズンシップ」について、学習者の課題発表と全体討議で考察していく。	次回授業内容に関連する指定文献を読み、担当者はレジュメを作成する。そして、レジュメ作成者、また各自は気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
第14回	**シチズンシップ教育実践を構想する** 本コースの学びを振り返った上で，自らの「現場」におけるシティズンシップ教育実践をデザインしていく。そこで，本講義ではグループで意見交換を行いながら，個々人で設計していく。	本コースでの学修を臨床化する課題に取り組むにあたって，自らに課す与件を整理してくる。	4時間
第15回	**総括：シチズンシップ教育が育む「市民」とは？** 本授業の学びの集大成として，自らの「現場」におけるシチズンシップ教育実践の構想を発表し，自らが教育活動を通じてどのような「市民」を育みたいのかを明確化する。その上で，21世紀社会デザインにおける市民像を巡る全体討議を行い，全体の総括とする。	次回授業内容に関連する指定文献を読み、担当者はレジュメを作成する。そして、レジュメ作成者、また各自は気になったキーワード15個を用いて，3つの「問い」をつくること。そして，それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間

授業科目名	**インクルーシブ教育特論**				
担当教員名	**金丸彰寿**				
学年・コース等	1･2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

最初に「インクルージョン」の基本的な考え方を学ぶ。次に、障害のある児童生徒に対する教育制度等に関する情報収集を行い、インクルーシブ教育の観点も含めて実施状況及びその課題を探る。特別支援学校などでは、「交流及び共同学習」の実施が義務付けられており、その情報収集をもとに課題及び解決策を検討する。全体的には、インクルーシブ教育システムの構築に資する実践などを収集し、「共生社会」を目指した教育的取組に関する知見を明確にし、その定着を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術	インクルーシブ教育に関する知識	インクルーシブ教育に関する理論的・実践的な到達点と課題を理解できる
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		インクルーシブ教育やインクルージョン／「共生」の理念を踏まえ、その理念を深化させうる実践を創造する上で求められる視点・手法を考えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
研究協議等参加度	30 %	： 議論のテーマを踏まえた発表と応答の内実について、ルーブリックに基づいて4段階で評価します。
事前学習レポート・研究協議まとめ提出	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、ルーブリックに基づいて4段階で評価します。
到達度期末レポート	40 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、ルーブリックに基づいて4段階で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・赤木和重『アメリカの教室に入ってみた: 貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで』（ひとなる書房、2017年、978-4894642423）
・金丸彰寿『「「共生」の教育創造に向けた〈関係形成〉〈理解・認識〉の内容と連関: 京都府下における「共同教育」実践の遺産』（風間書房、2024年、

978-4759925005)
・堤英俊『知的障害教育の場とグレーゾーンの子どもたち: インクルーシブ社会への教育学』（東京大学出版会、2019年、978-4130562294）
・戸野塚厚子『スウェーデンの義務教育における「共生」のカリキュラム ： “Samlevnad”の理念と展開』(明石書店、2014年、978-4750340425)
・渡部昭男編著『自分日本型インクルーシブ教育システムへの道―中教審報告のインパクト』（山学出版、2012年、978-4903520704）

他の参考文献については授業時に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：

備考・注意事項：　授業以外で質問などがある場合は、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

kanamaru1990@shoin.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション及びインクルージョンに関する基本的な理解（1）** ・授業の方法及び評価について、インクルージョンの潮流や背景など 　インクルーシブ教育に関する法令等や思想などについて概説。 　特別支援教育の基本的な考え方や制度などについて概説。	・インクルーシブ教育の基本となっているインクルージョンやノーマラゼーションを調査し、その概要をレポートにまとめる。	4時間
第2回	**インクルージョンに関する基本的な理解（2）** ・主としてインクルージョンの考え方と学校教育との関連 　インクルージョンやノーマライゼーションの考え方を共有しつつ、学校教育における課題等を明らかにする。	・障害者権利条約の内容を調査し、教育に関係する部分をレポートにまとめる。	4時間
第3回	**障害者権利条約と関連する制度・法令等** ・障害者権利条約の基本と学校教育との関連、障害者基本法や障害者差別解消推進法など 　障害者権利条約におけ規定や関係法令等を明らかにしつつ、学校教育への影響や課題を明らかにする。	・各自が取り組んできた障害のある児童生徒への支援等の取組をレポートにまとめる。	4時間
第4回	**障害者権利条約におけるインクルーシブ教育** ・インクルーシブ教育の基本的な考え方	・インクルーシブ教育システムについて、実際の状況を調査し、レポートにまとめる。	4時間
第5回	**インクルーシブ教育システムの理解（1）** ・インクルーシブ教育を目指す制度や仕組み 　各自が取り組んできた障害のある児童生徒への支援内容を踏まえつつ、それを支える制度や仕組みがどのようになっているかを明らかにする。	・インクルーシブ教育を目指す際の課題と考えられることを調査し、レポートにまとめる。	4時間
第6回	**インクルーシブ教育システムの理解（2）** ・インクルーシブ教育を目指す際のシステム上の課題 　学校教育においてインクルーシブ教育を進める際の制度上の課題を、実際の指導に必要な手立てを踏まえつつ明らかにする。	・特別支援学校の制度等を調査し、基本的な構造をレポートにまとめる。	4時間
第7回	**特別支援教育に関する制度・法令等（1）** ・特別支援学校における教育課程編成等に係る制度・法令等 　我が国の特別支援に係る制度・法令等の意義や仕組みを、実際の指導状況と照らし合わせつつ理解する。	・小・中学校等における特別な教育課程編成等を調査し、レポートにまとめる。	4時間
第8回	**特別支援教育に関する制度・法令等（2）** ・通常の学校における教育課程編成等に係る制度・法令等、中間考査 　小・中学校等における特別な教育課程の実際を踏まえつつ、関連する法令等・制度を理解する。	・特別支援学校等における「交流及び共同学習」について、課題と考えられることをレポートにまとめる。	4時間
第9回	**「交流及び共同学習」の実際** ・特別支援学校等における「交流及び共同学習」に関する関連法令・ガイドライン 　特別支援学校等における実践を踏まえつつ、「交流及び共同学習」に関する関連法令・ガイドラインの意義を理解する。	・各自の「交流及び共同学習」の経験を振り返り、その課題をレポートにまとめる。	4時間
第10回	**「交流及び共同学習」における課題と対応策** ・「交流及び共同学習」の効果的な実践の内容・方法等 　各自の経験等を踏まえつつ、学校教育において、「交流及び共同学習」の効果的な実践の内容・方法等を明らかにする。	・どの子も分かることを目指す授業の工夫や障害のある児童生徒へ授業における配慮について、その基本的な考え方をレポートにまとめる。	4時間
第11回	**通常の学級におけるインクルーシブ教育システムの取組**	・通常の学級におけるインクルーシブ教育の課題についてレポートにまとめる。	4時間

	・授業のユニバーサルデザインと合理的配慮 　授業のユニバーサルデザインの基本的な考え方や実際の取組、「合理的配慮」の在り方を理解する。		
第12回	**通常の学級におけるインクルーシブ教育システムの課題と対応策** ・インクルーシブ教育の効果的な実践のための内容・方法等 　通常の学級におけるインクルーシブ教育の課題に対応する具体的な方策を理解する。	・「共生社会」について調査し、そのあり方をレポートにまとめる。	4時間
第13回	**「共生社会」に実現に向けた学校教育における取組（１）** ・インクルーシブ教育を充実させるための学校における全体的な教育活動 　学校における「共生社会」の実現を目指す際の重要な取組を理解する。	・「共生社会」の実現のための学校と他の機関の連携に関する経験を振り返り、その課題をレポートにまとめる。	4時間
第14回	**「共生社会」に実現に向けた学校教育における取組（２）** ・インクルーシブ教育を充実させるために必要な関係機関・地域社会との連携等 　インクルーシブ教育を充実させるために必要な関係機関等を明らかにしつつ、地域社会との効果的な連携等の在り方を理解する。	・これまでの授業内容を振り返り、インクルーシブ教育を実際に展開するための方策について、実現可能なことをレポートにまとめる。	4時間
第15回	**総括** ・インクルーシブ教育を充実させるための具体的な改善事項等の集約 　各自がインクルーシブ教育を展開するための実現可能な方策について発表し、学校における努力の方向を明らかにする。		4時間

435

授業科目名	研究指導Ⅰ				
担当教員名	安部惠子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。本講義では、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。この中で、健康教育学、スポーツ科学、身体活動論を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の文献研究を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	研究の意義、先行研究の検討、研究倫理	研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確にする。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。
授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―	・丸善出版	・2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業初回に連絡する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**大学院における研究とは** 大学院における研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**これまでの実践経験の省察** 各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**これまでの研究成果の省察** 各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**問題意識の明確化** 各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**先行研究を知ることの意義** 学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の位置づけについて理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**先行研究に関する文献資料の収集方法** 文献資料の収集方法について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**問題意識に関する先行研究の探索** 各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**問題意識と先行研究との関連** 先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究倫理(1)　責任ある研究活動とは** 社会における研究行為の責務と研究者に求められることについて、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究倫理(2) 研究計画の段階** 研究計画段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**研究倫理(3) 研究実施の段階** 研究実施段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究倫理(4) 成果発表の段階** 成果発表段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**研究テーマの構想** 各自の研究テーマを具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

第14回	**研究テーマと研究方法** 研究テーマに即した研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**研究テーマの設定** 社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

435

授業科目名	研究指導Ⅰ				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。このうち「研究指導Ⅰ」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。
この中で、臨床教育学、特に子どもとその家族に対する関わりを中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	研究の意義、先行研究の検討、研究倫理	研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確にする。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・ 科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―	・ 丸善出版	・ 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業日の17時から18時まで

場所：　中央館２階個人研究室72

備考・注意事項：　備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「研究指導１：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**大学院における研究とは** 大学院における研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**これまでの実践経験の省察** 各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**これまでの研究成果の省察** 各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**問題意識の明確化** 各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**先行研究を知ることの意義** 学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の位置づけについて理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**先行研究に関する文献資料の収集方法** 文献資料の収集方法について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**問題意識に関する先行研究の探索** 各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**問題意識と先行研究との関連** 先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究倫理(1)　責任ある研究活動とは** 社会における研究行為の責務と研究者に求められることについて、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究倫理(2) 研究計画の段階** 研究計画段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**研究倫理(3) 研究実施の段階** 研究実施段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究倫理(4) 成果発表の段階** 成果発表段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**研究テーマの構想** 各自の研究テーマを具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

第14回	**研究テーマと研究方法** 研究テーマに即した研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**研究テーマの設定** 社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

435

授業科目名	**研究指導Ⅰ**				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。このうち「研究指導Ⅰ」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。
この中で、教育カウンセリング心理学を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	研究の意義、先行研究の検討、研究倫理	研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確にする。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。
授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・ 科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―	・ 丸善出版	・ 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業日の授業時間前後

場所：　中央館５階個人研究室127

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**大学院における研究とは** 大学院における研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**これまでの実践経験の省察** 各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**これまでの研究成果の省察** 各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**問題意識の明確化** 各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**先行研究を知ることの意義** 学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の位置づけについて理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**先行研究に関する文献資料の収集方法** 文献資料の収集方法について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**問題意識に関する先行研究の探索** 各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**問題意識と先行研究との関連** 先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究倫理(1)　責任ある研究活動とは** 社会における研究行為の責務と研究者に求められることについて、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究倫理(2) 研究計画の段階** 研究計画段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**研究倫理(3) 研究実施の段階** 研究実施段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究倫理(4) 成果発表の段階** 成果発表段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**研究テーマの構想** 各自の研究テーマを具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**研究テーマと研究方法**	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

	研究テーマに即した研究方法を具体化する。		
第15回	**研究テーマの設定** 社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

435

授業科目名	**研究指導Ⅰ**				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて研究する。「研究指導Ⅰ」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。教育心理学、特に子どもと教育者の発達と学習を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、自らの教育経験の省察と関連分野の国内外の先行研究の検討を行い、先行研究の整理、研究倫理、研究方法の理解等研究の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	教育経験の省察、研究の意義	自らの教育経験を省察し、修士論文の研究テーマを明確にする。

汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		先行研究の整理、研究方法の理解

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。
授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業時における発表	60 %	:	授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	:	レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―	・丸善出版	・2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 研究指導の前後に対応する。

場所： 研究室（中央館２階　研究室８０）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**大学院における研究とは** 大学院における研究の在り方について理解を深めます。	次回の予習を行う。（実践経験の記録作成）	2時間
第2回	**これまでの実践経験の省察** 各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方向性を探ります。	次回の予習を行う。（研究成果のレポート作成）	2時間
第3回	**これまでの研究成果の省察** 各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今後の研究の方向性を探ります。	次回の予習を行う。（問題意識のレポート作成）	2時間
第4回	**問題意識の明確化** 各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の方向性を探ります。	次回の予習を行う。（先行研究の調査と講読）	2時間
第5回	**先行研究を知ることの意義** 学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の位置づけについて理解を深めます。	次回の予習を行う。（先行研究の調査）	2時間
第6回	**先行研究に関する文献資料の収集方法** 文献資料の収集方法について、理解を深めます。	次回の予習を行う。（先行研究の調査）	2時間
第7回	**問題意識に関する先行研究の探索** 各自の問題意識に関連する先行研究を探索していきます。	次回の予習を行う。（先行研究の整理）	2時間
第8回	**問題意識と先行研究との関連** 先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連を明確化していきます。	先行研究に照らしながら、教育・研究経験の省察し、研究テーマを深める。	2時間
第9回	**研究倫理(1)　責任ある研究活動とは** 社会における研究行為の責務と研究者に求められることについて、理解を深めます。	次回の予習を行う。（研究計画の構想）	2時間
第10回	**研究倫理(2) 研究計画の段階** 研究計画段階における研究者の責務について、理解を深めます。	次回の予習を行う。（研究計画の推敲）	2時間
第11回	**研究倫理(3) 研究実施の段階** 研究実施段階における研究者の責務について、理解を深めます。	次回の予習を行う。（研究の意義の考察）	2時間
第12回	**研究倫理(4) 成果発表の段階** 成果発表段階における研究者の責務について、理解を深めます。	次回の予習を行う。（研究テーマと先行研究レビュー）	2時間
第13回	**研究テーマの構想** 各自の研究テーマを具体化していきます。	次回の予習を行う。（研究方法の立案）	2時間
第14回	**研究テーマと研究方法** 研究テーマに即した研究方法を具体化していきます。	次回の予習を行う。（研究計画案の作成）	2時間
第15回	**研究テーマの設定** 社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定します。	研究計画の具体化に向けた準備を行う。	2時間

435

授業科目名	**研究指導Ⅰ**				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。このうち「研究指導Ⅰ」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。
この中で、保育・教育を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	研究の意義、先行研究の検討、研究倫理	研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確にする。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。
授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業初回に連絡する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**大学院における研究とは** 大学院における研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**これまでの実践経験の省察** 各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**これまでの研究成果の省察** 各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**問題意識の明確化** 各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**先行研究を知ることの意義** 学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の位置づけについて理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**先行研究に関する文献資料の収集方法** 文献資料の収集方法について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**問題意識に関する先行研究の探索** 各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**問題意識と先行研究との関連** 先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究倫理(1)　責任ある研究活動とは** 社会における研究行為の責務と研究者に求められることについて、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究倫理(2) 研究計画の段階** 研究計画段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**研究倫理(3) 研究実施の段階** 研究実施段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究倫理(4) 成果発表の段階** 成果発表段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**研究テーマの構想** 各自の研究テーマを具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

第14回	**研究テーマと研究方法** 研究テーマに即した研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**研究テーマの設定** 社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

435

授業科目名	研究指導Ⅰ				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校教諭（6年）、京都府小学校教諭(14年）、京都府教育委員会指導主事（7年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。このうち「研究指導Ⅰ」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。
この中で、子どもの発育発達を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	研究の意義、先行研究の検討、研究倫理	研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確にする。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。
授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―	・丸善出版	・2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業初回に連絡する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**大学院における研究とは** 大学院における研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**これまでの実践経験の省察** 各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**これまでの研究成果の省察** 各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**問題意識の明確化** 各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の方向性を探る。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**先行研究を知ることの意義** 学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の位置づけについて理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**先行研究に関する文献資料の収集方法** 文献資料の収集方法について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**問題意識に関する先行研究の探索** 各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**問題意識と先行研究との関連** 先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究倫理(1)　責任ある研究活動とは** 社会における研究行為の責務と研究者に求められることについて、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究倫理(2) 研究計画の段階** 研究計画段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**研究倫理(3) 研究実施の段階** 研究実施段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究倫理(4) 成果発表の段階** 成果発表段階における研究者の責務について、理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**研究テーマの構想** 各自の研究テーマを具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

第14回	**研究テーマと研究方法** 研究テーマに即した研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**研究テーマの設定** 社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

435

授業科目名	**研究指導Ⅱ**				
担当教員名	安部恵子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅱ」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。
特に、健康教育、スポーツ科学、身体活動論を中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	研究構想、研究計画、データの収集・整理・分析方法の習得	修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研究計画を具体的に策定する。
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。
授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものについて作成したものを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業時における発表	60 %	：	授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	：	レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 授業初回に連絡する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究構想と研究計画の具体化とは** 研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**研究の社会的意義** 研究の社会的意義について明確化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**研究における仮説** 研究における仮説の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**研究構想案の作成** 具体的な研究構想案を作成する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**研究構想の検討(1)社会的意義との関連** 研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**研究構想の検討(2)先行研究との関連** 研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**研究構想の検討(3) 研究方法との関連** 研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究構想発表の準備** 研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究構想発表** 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を通して、研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究構想発表のふりかえり** 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**研究計画策定について** 研究計画を策定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究計画の検討：研究方法の具体化** 研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ収集方法の検討** データ収集の方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**データ分析方法の検討**	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

	データ分析方法の検討を行う。		
第15回	**研究計画書の作成** 研究計画書の完成を目指す。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

435

授業科目名	**研究指導Ⅱ**				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅱ」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。
臨床教育学、特に子どもとその家族に対する関わりを中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	研究構想、研究計画、データの収集・整理・分析方法の習得	修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研究計画を具体的に策定する。
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・ 科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－	・ 丸善出版	・ 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業日の17時から18時まで

場所：　中央館２階個人研究室72

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「研究指導２：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究構想と研究計画の具体化とは** 研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**研究の社会的意義** 研究の社会的意義について明確化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**研究における仮説** 研究における仮説の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**研究構想案の作成** 具体的な研究構想案を作成する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**研究構想の検討(1)社会的意義との関連** 研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**研究構想の検討(2)先行研究との関連** 研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**研究構想の検討(3) 研究方法との関連** 研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究構想発表の準備** 研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究構想発表** 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を通して、研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究構想発表のふりかえり** 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**研究計画策定について** 研究計画を策定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究計画の検討：研究方法の具体化** 研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ収集方法の検討** データ収集の方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**データ分析方法の検討** データ分析方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

第15回	**研究計画書の作成** 研究計画書の完成を目指す。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

435

授業科目名	研究指導Ⅱ				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅱ」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。
教育カウンセリング心理学を中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	研究構想、研究計画、データの収集・整理・分析方法の習得	修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研究計画を具体的に策定する。
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。
授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものについて作成したものを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業時における発表	60 %	：	授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	：	レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業日の授業時間前後

場所：　中央館５階個人研究室127

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究構想と研究計画の具体化とは** 研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**研究の社会的意義** 研究の社会的意義について明確化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**研究における仮説** 研究における仮説の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**研究構想案の作成** 具体的な研究構想案を作成する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**研究構想の検討(1)社会的意義との関連** 研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**研究構想の検討(2)先行研究との関連** 研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**研究構想の検討(3) 研究方法との関連** 研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究構想発表の準備** 研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究構想発表** 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を通して、研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究構想発表のふりかえり** 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**研究計画策定について** 研究計画を策定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究計画の検討：研究方法の具体化** 研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ収集方法の検討** データ収集の方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**データ分析方法の検討** データ分析方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**研究計画書の作成** 研究計画書の完成を目指す。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

435

授業科目名	**研究指導Ⅱ**				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。「研究指導Ⅱ」では、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。教育心理学、特に子どもと教育者の発達と学習を中心とした課題と実践に関する研究テーマを明確にし、具体的な研究計画の構想を目指す。特に、研究テーマに即した研究方法を選択し、その研究法を理解し、研究方法の具体化を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	研究構想、研究計画、データの収集・整理・分析方法の習得	修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研究計画を具体的に策定する。
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		研究テーマと方法の決定

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。
授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものについて作成したものを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 研究指導の前後に対応する。

場所： 研究室（中央館２階　研究室８０）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**研究構想と研究計画の具体化とは** 研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案していきます。	次回の予習（自身の研究に関する文献を講読し、研究の社会的背景と意義を考察する）	2時間
第2回	**研究の社会的意義** 研究の社会的意義について明確化します。	次回の予習（研究における仮説の在り方を考えるための文献を講読する）	2時間
第3回	**研究における仮説** 研究における仮説の在り方について理解を深めます。	次回の予習（研究構想案の作成）	2時間
第4回	**研究構想案の作成** 具体的な研究構想案を作成します。	次回の予習（研究の社会的意義の考察）	2時間
第5回	**研究構想の検討(1)社会的意義との関連** 研究構想案について、社会的意義との関連を明確にします。	次回の予習（先行研究のレビュー）	2時間
第6回	**研究構想の検討(2)先行研究との関連** 研究構想案について、先行研究との関連を明確にします。	次回の予習（研究方法に関する先行研究の探索）	2時間
第7回	**研究構想の検討(3) 研究方法との関連** 研究構想案について、研究方法との関連を明確にします。	次回の予習（研究構想発表レジュメの作成）	2時間
第8回	**研究構想発表の準備** 研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組みます。	次回の予習（研究構想発表レジュメの作成）	2時間
第9回	**研究構想発表** 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに具体化していきます。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を通して、研究の在り方について理解を深めます。	次回の予習（構想発表をふまえて研究構想の再検討）	2時間
第10回	**研究構想発表のふりかえり** 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を行います。	次回の予習（文献を読み研究方法を考える）	2時間
第11回	**研究計画策定について** 研究計画を策定していきます。	次回の予習（研究方法の具体的立案）	2時間
第12回	**研究計画の検討：研究方法の具体化** 研究方法を具体化していきます。	次回の予習（研究方法の吟味）	2時間
第13回	**データ収集方法の検討** データ収集の方法の検討を行います。	次回の予習（研究方法、特に分析方法の吟味）	2時間
第14回	**データ分析方法の検討** データ分析方法の検討を行います。	次回の予習（研究計画書の作成）	2時間
第15回	**研究計画書の作成** 研究計画書の完成を目指します。	研究の実施に向けて準備を進める。	2時間

435

授業科目名	研究指導Ⅱ				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅱ」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。
保育・教育を中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	研究構想、研究計画、データの収集・整理・分析方法の習得	修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研究計画を具体的に策定する。
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。
授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものについて作成したものを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業時における発表	60 %	：	授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	：	レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 授業初回に連絡する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究構想と研究計画の具体化とは** 研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**研究の社会的意義** 研究の社会的意義について明確化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**研究における仮説** 研究における仮説の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**研究構想案の作成** 具体的な研究構想案を作成する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**研究構想の検討(1)社会的意義との関連** 研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**研究構想の検討(2)先行研究との関連** 研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**研究構想の検討(3) 研究方法との関連** 研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究構想発表の準備** 研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究構想発表** 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を通して、研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究構想発表のふりかえり** 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**研究計画策定について** 研究計画を策定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究計画の検討：研究方法の具体化** 研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ収集方法の検討** データ収集の方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**データ分析方法の検討**	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

	データ分析方法の検討を行う。		
第15回	**研究計画書の作成** 研究計画書の完成を目指す。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

435

授業科目名	**研究指導Ⅱ**				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校教諭（6年）、京都府小学校教諭(14年）、京都府教育委員会指導主事（7年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅱ」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。
子どもの発育発達を中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	研究構想、研究計画、データの収集・整理・分析方法の習得	修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研究計画を具体的に策定する。
汎用的な力		
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決		研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。
授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものについて作成したものを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業時における発表	60 %	：	授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	：	レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 授業初回に連絡する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究構想と研究計画の具体化とは** 研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**研究の社会的意義** 研究の社会的意義について明確化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**研究における仮説** 研究における仮説の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**研究構想案の作成** 具体的な研究構想案を作成する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**研究構想の検討(1)社会的意義との関連** 研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**研究構想の検討(2)先行研究との関連** 研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**研究構想の検討(3) 研究方法との関連** 研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究構想発表の準備** 研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究構想発表** 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を通して、研究の在り方について理解を深める。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究構想発表のふりかえり** 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**研究計画策定について** 研究計画を策定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究計画の検討：研究方法の具体化** 研究方法を具体化する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ収集方法の検討** データ収集の方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**データ分析方法の検討**	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

	データ分析方法の検討を行う。		
第15回	**研究計画書の作成** 研究計画書の完成を目指す。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

436

授業科目名	研究指導Ⅲ				
担当教員名	安部惠子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。
この中で、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究計画人基づき、フィールド調査による質的分析を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	データの収集・整理・分析	フィールド調査によるデータの収集・整理・分析に関する指導を行う。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・ 科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―	・ 丸善出版	・ 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時相談にのります

場所：　中央館２階個人研究室72

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する（講義時に提示）。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「研究指導Ⅰ～Ⅱ」を通しての学びの省察** これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**データ収集実施の具体的手順** データ収集の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**データ収集時における倫理的配慮の再確認** データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**データ収集状況の確認** データ収集のこれまでの状況を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**データ収集過程の再検討** データ収集の過程を再度吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**データ分析方法の具体的手順** データ分析の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**データ分析方法の確認** データの分析方法について確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究中間発表の準備** 研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究中間発表** 研究中間発表に取り組みます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究中間発表のふりかえり** 研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**データ分析方法の再検討** データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究の妥当性と信頼性** 研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連づけながら、理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ分析の実施** 収集したデータをもとにその分析を実施していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**分析結果の検討** データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**分析結果の具体的記述**	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

分析結果を具体的に記述しています。		

436

授業科目名	研究指導Ⅲ				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。
この中で、臨床教育学、特に子どもとその家族に対する関わりを中心とした課題と実践に関する研究計画に基づき、インタビュー調査による質的分析による研究を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	データの収集・整理・分析	インタビュー調査による質的分析による研究を実施し、データの収集・整理・分析を行うことができる。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・ 科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一	・ 丸善出版	・ 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業日の17時から18時まで

場所：　中央館２階個人研究室72

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「研究指導３：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「研究指導Ⅰ～Ⅱ」を通しての学びの省察** これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**データ収集実施の具体的手順** データ収集の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**データ収集時における倫理的配慮の再確認** データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**データ収集状況の確認** データ収集のこれまでの状況を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**データ収集過程の再検討** データ収集の過程を再度吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**データ分析方法の具体的手順** データ分析の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**データ分析方法の確認** データの分析方法について確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究中間発表の準備** 研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究中間発表** 研究中間発表に取り組みます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究中間発表のふりかえり** 研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**データ分析方法の再検討** データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究の妥当性と信頼性** 研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連づけながら、理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ分析の実施** 収集したデータをもとにその分析を実施していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**分析結果の検討** データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

第15回	**分析結果の具体的記述** 分析結果を具体的に記述しています。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

436

授業科目名	**研究指導Ⅲ**				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。
この中で、教育カウンセリング心理学を中心とした課題と実践に関する研究計画に基づき、インタビュー調査による質的分析による研究を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	データの収集・整理・分析	インタビュー調査による質的分析による研究を実施し、データの収集・整理・分析を行うことができる。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・ 科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一	・ 丸善出版	・ 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業日

場所：　中央館５階個人研究室127

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「研究指導３：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「研究指導Ⅰ～Ⅱ」を通しての学びの省察** これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**データ収集実施の具体的手順** データ収集の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**データ収集時における倫理的配慮の再確認** データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**データ収集状況の確認** データ収集のこれまでの状況を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**データ収集過程の再検討** データ収集の過程を再度吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**データ分析方法の具体的手順** データ分析の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**データ分析方法の確認** データの分析方法について確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究中間発表の準備** 研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究中間発表** 研究中間発表に取り組みます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究中間発表のふりかえり** 研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**データ分析方法の再検討** データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究の妥当性と信頼性** 研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連づけながら、理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ分析の実施** 収集したデータをもとにその分析を実施していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**分析結果の検討** データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

第15回	**分析結果の具体的記述** 分析結果を具体的に記述しています。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

436

授業科目名	**研究指導Ⅲ**				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。
このなかで、本クラスにおいては、教育心理学、特に子どもと教育者の発達と学習を中心とした課題と実践に関する研究計画に基づき、研究を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	データの収集・整理・分析	インタビュー調査による質的分析による研究を実施し、データの収集・整理・分析を行うことができる。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 中央館5階個人研究室127

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「研究指導Ⅰ～Ⅱ」を通しての学びの省察** これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**データ収集実施の具体的手順** データ収集の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**データ収集時における倫理的配慮の再確認** データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**データ収集状況の確認** データ収集のこれまでの状況を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**データ収集過程の再検討** データ収集の過程を再度吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**データ分析方法の具体的手順** データ分析の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**データ分析方法の確認** データの分析方法について確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究中間発表の準備** 研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究中間発表** 研究中間発表に取り組みます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究中間発表のふりかえり** 研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**データ分析方法の再検討** データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究の妥当性と信頼性** 研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連づけながら、理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ分析の実施** 収集したデータをもとにその分析を実施していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**分析結果の検討** データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**分析結果の具体的記述** 分析結果を具体的に記述しています。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

436

授業科目名	**研究指導Ⅲ**				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。
この中で、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究計画人基づき、フィールド調査による質的分析を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	データの収集・整理・分析	フィールド調査によるデータの収集・整理・分析に関する指導を行う。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 初回の授業で連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「研究指導Ⅰ～Ⅱ」を通しての学びの省察** これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**データ収集実施の具体的手順** データ収集の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**データ収集時における倫理的配慮の再確認** データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**データ収集状況の確認** データ収集のこれまでの状況を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**データ収集過程の再検討** データ収集の過程を再度吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**データ分析方法の具体的手順** データ分析の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**データ分析方法の確認** データの分析方法について確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究中間発表の準備** 研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究中間発表** 研究中間発表に取り組みます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究中間発表のふりかえり** 研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**データ分析方法の再検討** データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究の妥当性と信頼性** 研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連づけながら、理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ分析の実施** 収集したデータをもとにその分析を実施していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**分析結果の検討** データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**分析結果の具体的記述** 分析結果を具体的に記述しています。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

436

授業科目名	研究指導Ⅲ				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。
この中で、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究計画人基づき、フィールド調査による質的分析を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	データの収集・整理・分析	フィールド調査によるデータの収集・整理・分析に関する指導を行う。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ～Ⅱ」を通しての学びの省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。		
第2回	**データ収集実施の具体的手順** データ収集の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**データ収集時における倫理的配慮の再確認** データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**データ収集状況の確認** データ収集のこれまでの状況を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**データ収集過程の再検討** データ収集の過程を再度吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**データ分析方法の具体的手順** データ分析の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**データ分析方法の確認** データの分析方法について確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究中間発表の準備** 研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究中間発表** 研究中間発表に取り組みます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究中間発表のふりかえり** 研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**データ分析方法の再検討** データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究の妥当性と信頼性** 研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連づけながら、理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ分析の実施** 収集したデータをもとにその分析を実施していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**分析結果の検討** データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**分析結果の具体的記述** 分析結果を具体的に記述しています。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

436

授業科目名	**研究指導Ⅳ**				
担当教員名	安部惠子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、個々の研究テーマを探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅳ」においては、修士論文の到達点を明確にし、データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させ、修士論文の完成をめざす。
この中で、身体健康学,予防医科学的見地から見た健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究について、特に、研究結果を踏まえて、教育に関する実践的課題を踏まえた考察を深めた修士論文の完成をめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	理論構築、オリジナリティ、省察	修士論文を完成させることができる。自らの研究過程を具体的に省察することができる。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	：　①考察の検討、②研究のふりかえりについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	：　レポートについては、研究への取り組みについての全般的な省察に関するものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―	・丸善出版	・2015　年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　随時相談にのります

場所：　中央館２階個人研究室79

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：abe-ke@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「研究指導４：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「研究指導Ⅰ～Ⅲ」を通しての学びの省察** これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**研究テーマとこれまでの論術内容の確認** これまでの論述内容と研究テーマの整合性を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**先行研究と論文テーマとの関連の再確認** 先行研究と研究テーマの関連性を再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**考察の検討(1)結果との関連性** 結果と考察の関連性を検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**考察の検討(2)研究成果の社会的貢献** 研究成果の社会的貢献という視点で考察を検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**考察の検討(3)本研究の限界に関する検討** 本研究を全般的にとらえ、研究の限界と今後の研究のあり方について検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**論文の論述と内容の確認（論文全体の構成を中心に）** 論文全体の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**論文の論述と内容の確認（章・節の構成を中心に）** 章・節の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**論文の論述と内容の確認（引用・注釈の表示を中心に）** 引用・注釈の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献を中心に）** 引用文献と参考文献を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**論文の論述と内容の確認（図表の表示を中心に）** 図表の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**論文提出のための最終確認** 論文提出のための最終確認をしていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**研究過程全体のふりかえり** 研究過程全体を中心に自らの研究をふりかえります。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**研究成果のふりかえり**	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

	研究成果の観点から、自らの研究をふりかえります。		
第15回	**今後の研究に向けた取り組み** これまでの研究をふりかえり、今後の研究課題を明確化していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

436

授業科目名	**研究指導Ⅳ**				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、個々の研究テーマを探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅳ」においては、修士論文の到達点を明確にし、データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させ、修士論文の完成をめざす。
この中で、臨床教育学、特に子どもとその家族に対する関わりを中心とした課題と実践に関する研究について、特に、研究結果を踏まえて、教育に関する実践的課題を踏まえた考察を深めた修士論文の完成をめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２. 教育実践の省察と創造的問題解決	理論構築、オリジナリティ、省察	修士論文を完成させることができる。自らの研究過程を具体的に省察することができる。
汎用的な力		
1. DP１. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術		データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	：　①考察の検討、②研究のふりかえりについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	：　レポートについては、研究への取り組みについての全般的な省察に関するものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―	・丸善出版	・2015　年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業日の17時から18時まで

場所：　中央館２階個人研究室72

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「研究指導４：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「研究指導Ⅰ～Ⅲ」を通しての学びの省察** これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**研究テーマとこれまでの論術内容の確認** これまでの論述内容と研究テーマの整合性を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**先行研究と論文テーマとの関連の再確認** 先行研究と研究テーマの関連性を再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**考察の検討(1)結果との関連性** 結果と考察の関連性を検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**考察の検討(2)研究成果の社会的貢献** 研究成果の社会的貢献という視点で考察を検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**考察の検討(3)本研究の限界に関する検討** 本研究を全般的にとらえ、研究の限界と今後の研究のあり方について検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**論文の論述と内容の確認（論文全体の構成を中心に）** 論文全体の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**論文の論述と内容の確認（章・節の構成を中心に）** 章・節の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**論文の論述と内容の確認（引用・注釈の表示を中心に）** 引用・注釈の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献を中心に）** 引用文献と参考文献を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**論文の論述と内容の確認（図表の表示を中心に）** 図表の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**論文提出のための最終確認** 論文提出のための最終確認をしていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**研究過程全体のふりかえり** 研究過程全体を中心に自らの研究をふりかえります。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**研究成果のふりかえり**	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

	研究成果の観点から、自らの研究をふりかえります。		
第15回	**今後の研究に向けた取り組み** これまでの研究をふりかえり、今後の研究課題を明確化していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

436

授業科目名	研究指導Ⅳ				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、個々の研究テーマを探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅳ」においては、修士論文の到達点を明確にし、データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させ、修士論文の完成をめざす。
この中で、教育カウンセリング心理学を中心とした課題と実践に関する研究について、特に、研究結果を踏まえて、教育に関する実践的課題を踏まえた考察を深めた修士論文の完成をめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２. 教育実践の省察と創造的問題解決	理論構築、オリジナリティ、省察	修士論文を完成させることができる。自らの研究過程を具体的に省察することができる。
汎用的な力		
1. DP１. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術		データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	：　①考察の検討、②研究のふりかえりについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	：　レポートについては、研究への取り組みについての全般的な省察に関するものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本学術振興会（以下略）	・科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―	・丸善出版	・2015　年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 中央館５階　個人研究室127

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレスyoneda@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「研究指導４：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「研究指導Ⅰ～Ⅲ」を通しての学びの省察** これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**研究テーマとこれまでの論術内容の確認** これまでの論述内容と研究テーマの整合性を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**先行研究と論文テーマとの関連の再確認** 先行研究と研究テーマの関連性を再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**考察の検討(1)結果との関連性** 結果と考察の関連性を検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**考察の検討(2)研究成果の社会的貢献** 研究成果の社会的貢献という視点で考察を検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**考察の検討(3)本研究の限界に関する検討** 本研究を全般的にとらえ、研究の限界と今後の研究のあり方について検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**論文の論述と内容の確認（論文全体の構成を中心に）** 論文全体の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**論文の論述と内容の確認（章・節の構成を中心に）** 章・節の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**論文の論述と内容の確認（引用・注釈の表示を中心に）** 引用・注釈の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献を中心に）** 引用文献と参考文献を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**論文の論述と内容の確認（図表の表示を中心に）** 図表の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**論文提出のための最終確認** 論文提出のための最終確認をしていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**研究過程全体のふりかえり** 研究過程全体を中心に自らの研究をふりかえります。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

第14回	**研究成果のふりかえり** 研究成果の観点から、自らの研究をふりかえります。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**今後の研究に向けた取り組み** これまでの研究をふりかえり、今後の研究課題を明確化していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

436

授業科目名	**研究指導Ⅳ**				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。
このなかで、本クラスにおいては、教育心理学、特に子どもと教育者の発達と学習を中心とした課題と実践に関する研究計画に基づき、研究を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	データの収集・整理・分析	インタビュー調査による質的分析による研究を実施し、データの収集・整理・分析を行うことができる。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 中央館２階個人研究室80

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「研究指導Ⅰ～Ⅱ」を通しての学びの省察** これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**データ収集実施の具体的手順** データ収集の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**データ収集時における倫理的配慮の再確認** データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**データ収集状況の確認** データ収集のこれまでの状況を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**データ収集過程の再検討** データ収集の過程を再度吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**データ分析方法の具体的手順** データ分析の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**データ分析方法の確認** データの分析方法について確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究中間発表の準備** 研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究中間発表** 研究中間発表に取り組みます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究中間発表のふりかえり** 研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**データ分析方法の再検討** データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究の妥当性と信頼性** 研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連づけながら、理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ分析の実施** 収集したデータをもとにその分析を実施していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**分析結果の検討** データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**分析結果の具体的記述** 分析結果を具体的に記述しています。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

436

授業科目名	研究指導Ⅳ				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅰ～同Ⅳ」は、個々の研究テーマを探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅳ」においては、修士論文の到達点を明確にし、データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させ、修士論文の完成をめざす。
この中で、身体健康学、特にyp棒医学的見地から見た健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究について、特に、研究結果を踏まえて、教育に関する実践的課題を踏まえた考察を深めた修士論文の完成をめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	理論構築、オリジナリティ、省察	修士論文を完成させることができる。自らの研究過程を具体的に省察することができる。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	：　①考察の検討、②研究のふりかえりについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	：　レポートについては、研究への取り組みについての全般的な省察に関するものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回の授業で連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「研究指導Ⅰ～Ⅲ」を通しての学びの省察** これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**研究テーマとこれまでの論術内容の確認** これまでの論述内容と研究テーマの整合性を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**先行研究と論文テーマとの関連の再確認** 先行研究と研究テーマの関連性を再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**考察の検討(1)結果との関連性** 結果と考察の関連性を検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**考察の検討(2)研究成果の社会的貢献** 研究成果の社会的貢献という視点で考察を検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**考察の検討(3)本研究の限界に関する検討** 本研究を全般的にとらえ、研究の限界と今後の研究のあり方について検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**論文の論述と内容の確認（論文全体の構成を中心に）** 論文全体の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**論文の論述と内容の確認（章・節の構成を中心に）** 章・節の構成を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**論文の論述と内容の確認（引用・注釈の表示を中心に）** 引用・注釈の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献を中心に）** 引用文献と参考文献を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**論文の論述と内容の確認（図表の表示を中心に）** 図表の表示を中心に論文の内容を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**論文提出のための最終確認** 論文提出のための最終確認をしていきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**研究過程全体のふりかえり** 研究過程全体を中心に自らの研究をふりかえります。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**研究成果のふりかえり** 研究成果の観点から、自らの研究をふりかえります。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**今後の研究に向けた取り組み**	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間

これまでの研究をふりかえり、今後の研究課題を明確化していきます。		

436

授業科目名	**研究指導Ⅳ**				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。
この中で、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究計画人基づき、フィールド調査による質的分析を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察と創造的問題解決	データの収集・整理・分析	フィールド調査によるデータの収集・整理・分析に関する指導を行う。
汎用的な力		
1. DP１.教育学に関する高度な専門知識や教育技術		修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業時における発表（60%）ならびにレポートの成績（40%）を総合して評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時における発表	60 %	： 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。
レポート	40 %	： レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 授業時に周知する

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「研究指導Ⅰ～Ⅱ」を通しての学びの省察** これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、今後の研究計画を確認します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第2回	**データ収集実施の具体的手順** データ収集の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回	**データ収集時における倫理的配慮の再確認** データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第4回	**データ収集状況の確認** データ収集のこれまでの状況を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	**データ収集過程の再検討** データ収集の過程を再度吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第6回	**データ分析方法の具体的手順** データ分析の具体的な手順を確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第7回	**データ分析方法の確認** データの分析方法について確認していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	**研究中間発表の準備** 研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第9回	**研究中間発表** 研究中間発表に取り組みます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第10回	**研究中間発表のふりかえり** 研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理します。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第11回	**データ分析方法の再検討** データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第12回	**研究の妥当性と信頼性** 研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連づけながら、理解を深めます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第13回	**データ分析の実施** 収集したデータをもとにその分析を実施していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第14回	**分析結果の検討** データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第15回	**分析結果の具体的記述** 分析結果を具体的に記述しています。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間